志木市の文化財　第 74 集

西原大塚遺跡第 224 地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２０

埼玉県志木市教育委員会

志木市の文化財　第 74 集

西原大塚遺跡第 224 地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２０

埼玉県志木市教育委員会

はじめに

志木市教育委員会
教育長　柚木　博

ここに刊行する『西原大塚遺跡第 224 地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が平成31年度に受託事業として実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

現在、市内には、15カ所の埋蔵文化財包蔵地が登録されています。これらの埋蔵文化財は祖先が残してきた貴重な文化遺産であり、私たちはこれを大切に保護し後世に伝えていく使命があると言えます。

また、西原大塚遺跡については、これまでの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時期にわたる複合遺跡であることが判明しています。

さて、今回報告する西原大塚遺跡第 224 地点の調査概要について触れてみることにします。旧石器時代の調査では、石器製作を行った場所と考えられる石器集中地点とともに礫群が発見されました。礫群は焼石調理場であったと考えられております。当時、本地点で、石器作りや焼石調理が行われていたという風景が思い起こされます。中世以降では、土坑・道路状遺構・地下式坑・段切状遺構が発見されました。段切状遺構は、斜面地形の土地に対し掘削造成された平場面であります。造成後、土坑や地下式坑が作られ、生活面として利用されていたと考えられます。また、道路状遺構は台地から低地へ下る切通しの道路であることが判明しました。これらの成果によって、中世以降の土地利用の様子を窺い知ることができました。

このように、今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた事業主体者や土地所有者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

例　言

1．本書は、令和元年度に発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する遺跡である西原大塚遺跡第224地点の発掘調告報告書である。

2．分譲住宅建設に伴う記録保存のための発掘調査として、志木市教育委員会が土木工事主体者から委託を受け、調査主体者として実施した。

3．埋蔵文化財保存事業の実施にあたり、発掘作業・整理作業・報告書刊行作業を関東文化財振興会株式会社（代表取締役 宮田和男）に支援委託として委託した。

4．発掘作業は令和元年5月21日～7月31日まで行い、引き続き、整理作業・報告書刊行作業を令和2年3月31日まで行った。

5．本書は尾形則敏・大久保聡が監修し、編集は成島一也、西川忠春が行った。執筆は第1章を尾形則敏、第2章　第1節を大久保聡、それ以外を成島一也が担当した。

6．本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。

7．調査組織は以下の通りである。

【志木市教育委員会組織】

調査主体者	志木市教育委員会
教育長	柚木　博
教育政策部長	土岐隆一
教育政策部次長	北村竜一
生涯学習課長	原田謙二
生涯学習課主幹	中原敦也
生涯学習課主査	浅見千穂
〃	武井香代子
〃	尾形則敏
生涯学習課主任	松永真知子
〃	徳留彰紀
〃	大久保聡
生涯学習課主事補	鈴木楓月
志木市文化財保護審議会	井上國夫（会長） 深瀬　克・高橋　豊・上野守嘉・新田泰男（委員）
調査担当者	尾形則敏・徳留彰紀・大久保聡

【関東文化財振興会株式会社】

林　邦雄（調査員）・下岡孝明（調査補助員）

発掘調査参加者

鎌滝軍平・末武寿一・田中　勇・野口芳孝・野本和男・日野拓男

整理作業参加者

遠藤香織・川又恵美子・郡司ゆき子・鈴木香織・益子光江

8．各遺跡の発掘調査及び整理作業 報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

江原　順・加藤秀之・川畑隼人・隈本健介・小出輝雄・斉藤　純・齋藤欣延・斯波　治・鈴木一郎・照林敏郎・中岡貴裕・野沢　均・早坂廣人・堀　善之・前田秀則・松本富雄・柳井章宏・山本　龍・和田晋治・渡辺邦仁

9．本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成 31 年 4 月 26 日付け　教文資第 4 － 202 号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和元年 11 月 29 日付け　教生文第 7 － 85 号

凡　例

1．本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第 1 図　1:10,000「志木市全図」株式会社パスコ調製

第 2 図　1:2,500 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成 27 年 4 月発行
株式会社ゼンリン

2．本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に則している。

3．挿図版の縮は、それぞれに明記した。

4．遺構挿図版中の水糸レベルは、海抜標高を示す。

5．ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位は㎝である。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。

6．遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。

7．挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。

8．土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は［ ］、推定値は（ ）を付した。

高：器高　　口：口径　　底：底径　　厚：器厚

9．遺構の略記号は、以下のとおりである。

U＝旧石器時代の石器集中地点　　礫＝旧石器時代の礫群　　D＝土坑

道＝道路状遺構　　P＝ピット

目　　次

はじめに
例　　言／凡　　例／目　　次／挿図目次／表 目 次／図版目次
第１章　遺跡の立地と環境 …… 1
　第１節　　市域の地形と遺跡 …… 1
　第２節　　遺跡の概要 …… 8
第２章　発掘調査の概要 …… 9
　第１節　　調査に至る経緯 …… 9
　第２節　　調査の経過 …… 11
　第３節　　基本層序 …… 13
第３章　検出された遺構と遺物 …… 15
　第１節　　旧石器時代の遺構・遺物 …… 15
　第２節　　縄文時代の遺構・遺物 …… 29
　第３節　　中世以降の遺構・遺物 …… 30
　第４節　　遺構外出土遺物 …… 68
第４章　調査のまとめ …… 72
　第１節　　旧石器時代の調査成果 …… 72
　第２節　　中世以降の調査成果 …… 73

図　　版
報告書抄録

挿図目次

第１図　市域の地形と遺跡分布（１／20,000）…… 2
第２図　西原大塚遺跡の調査地点（１／5,000）… 10
第３図　確認調査時の遺構分布（１／300）…… 11
第４図　基本層序（１／200・１／80）…… 13
第５図　遺構分布図（１／150）…… 14
第６図　旧石器調査地点（１／200）…… 15
第７図　16号石器集中地点（１／60）…… 16
第８図　16号石器集中地点出土石器（２／３）…… 16
第９図　17号石器集中地点（１／60）…… 18
第10図　17号石器集中地点出土石器（２／３）…… 19
第11図　18号石器集中地点（１／60）…… 20
第12図　18号石器集中地点出土石器（２／３）…… 21
第13図　19号石器集中地点（１／60）…… 22
第14図　19号石器集中地点出土石器（２／３）…… 23
第15図　１号礫群（１／60）…… 23
第16図　２号礫群（１／60）…… 25
第17図　３号礫群（１／60）…… 27
第18図　４号礫群（１／60）…… 28
第19図　842号土坑（１／60）…… 29
第20図　877号土坑（１／60）…… 30
第21図　段切状遺構全体図（１／150）…… 31
第22図　北側中段面礫集中地点（１／60）…… 32
第23図　段切状遺構出土遺物（１／４）…… 33
第24図　土坑１（１／60）…… 47
第25図　土坑２（１／60）…… 48
第26図　土坑３（１／60）…… 49
第27図　土坑４（１／60）…… 50
第28図　土坑５（１／60）…… 51
第29図　土坑６（１／60）…… 52
第30図　土坑７（１／60）…… 53
第31図　土坑８（１／60）…… 54
第32図　土坑出土遺物（１／４）…… 56
第33図　１号道路状遺構（１／100）…… 57
第34図　１号道路状遺構出土遺物（１／４・２／３）… 58
第35図　ピット位置図（１／150）…… 59
第36図　ピット１（１／60）…… 60
第37図　ピット２（１／60）…… 61
第38図　ピット３（１／60）…… 62
第39図　ピット４（１／60）…… 63
第40図　101号ピット出土銭貨（１／１）…… 68
第41図　遺構外出土遺物１（２／３）…… 69
第42図　遺構外出土遺物２（１／３・１／４・１／１）…… 70

表目次

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧 …… 1
第２表　西原大塚遺跡第224地点の発掘調査工程表 … 12
第３表　16号石器集中地点出土石器一覧 …… 17
第４表　17号石器集中地点出土石器一覧 …… 19
第５表　17号石器集中地点出土接合資料一覧 …… 19
第６表　18号石器集中地点出土石器一覧 …… 22
第７表　18号石器集中地点出土接合資料一覧 …… 22
第８表　19号石器集中地点出土石器一覧 …… 23
第９表　１号礫群出土礫一覧 …… 24
第10表　２号礫群出土礫一覧 …… 26
第11表　３号礫群出土礫一覧 …… 28
第12表　４号礫群出土礫一覧 …… 29
第13表　段切状遺構出土陶磁器・土器一覧（１）… 33
　　段切状遺構出土陶磁器・土器一覧（２）… 34
第14表　土坑一覧（１）…… 54
　　土坑一覧（２）…… 55
第15表　土坑出土陶磁器・土器一覧 …… 56
第16表　１号道路状遺構出土陶器一覧 …… 57
第17表　ピット一覧（１）…… 64
　　ピット一覧（２）…… 65
　　ピット一覧（３）…… 66
　　ピット一覧（４）…… 67
第18表　101号ピット出土銭貨一覧 …… 68
第19表　遺構外出土石器一覧 …… 71
第20表　遺構外出土土器・陶器一覧 …… 71
第21表　遺構外出土銭貨一覧 …… 71

図版目次

図版１　１．段切状遺構北側中段面掘り方　２．段切状遺構最上段面
図版２　１．16号石器集中地点・１号礫群　２．16号石器集中地点石器出土状態
３．１号礫群遺物出土状態　４．TP04土層断面Ａ－Ａ'東壁
５．TP04土層断面Ｂ－Ｂ'南壁　６・７．17号石器集中地点・２号礫群
８．17号石器集中地点出土状態
図版３　１．17号石器集中地点石器出土状態　２～４．18号石器集中地点・３号礫群
５．18号石器集中地点石器出土状態　６．TP01土層断面Ａ－Ａ'東壁
７．TP01土層断面Ｂ－Ｂ'北壁　８．TP01土層断面Ｃ－Ｃ'東壁
図版４　１．４号礫群　２．TP02土層断面Ａ－Ａ'東壁　３．TP02土層断面Ｂ－Ｂ'南壁
４．TP03土層断面Ａ－Ａ'東壁　５．TP03土層断面Ｂ－Ｂ'南壁　６．19号石器集中地点
７・８　19号石器集中地点石器出土状態
図版５　１．TP05土層断面Ａ－Ａ'北壁　２．TP05土層断面Ｂ－Ｂ'東壁
３．842号土坑　４．877号土坑　５．段切状遺構（北側下段面）西側
６．段切状遺構（北側下段面）掘り方土層断面　７．段切状遺構（北側中段面）北側土層断面
８．段切状遺構（北側中段面）礫集中地点
図版６　１．段切状遺構（北側中段面）掘り方土層断面　２．段切状遺構（南側下段面）
３．段切状遺構（北側下段面）　４．839号土坑　５．840号土坑
６．841号土坑　７．843号土坑　８．845号土坑
図版７　１．846号土坑　２．847号土坑　３．848号土坑　４．852号土坑　５．853号土坑
６．855号土坑　７．856号土坑　８．857号土坑
図版８　１．858号土坑　２．859号土坑　３．860号土坑　４．863号土坑　５．864号土坑
６．865号土坑　７．866号土坑　８．867号土坑
図版９　１．868号土坑　２．869号土坑　３．870号土坑　４．871号土坑　５．873号土坑
６．874号土坑　７．875号土坑　８．876号土坑
図版10　１．878号土坑入口竪坑部　２．878号土坑入口竪坑部土層断面　３．879号土坑主体部土層断面
４．１号道路状遺構　５．１号道路状遺構土層断面Ａ－Ａ'　６．１号道路状遺構土層断面Ｂ－Ｂ'
７．１号道路状遺構硬化面　８．調査風景
図版11　１．16号石器集中地点出土石器　２．17号石器集中地点出土石器
図版12　18号石器集中地点出土石器
図版13　１．19号石器集中地点出土石器　２．段切状遺構出遺物
図版14　１．土坑出土遺物　２．１号道路状遺構出土遺物　３．101号ピット出土遺物
図版15　遺構外出土遺物１
図版16　遺構外出土遺物２

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　市域の地形と遺跡

（１）地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北 4.71km、東西 4.73km の広がりをもち、面積は 9.05㎢（註１）、人口約７万５千人の自然と文化の調和する都市である。

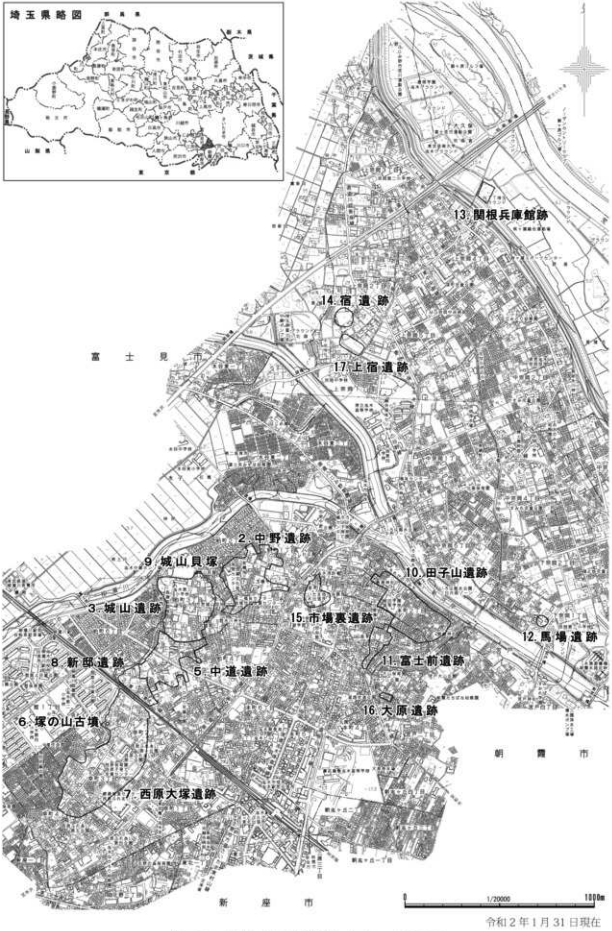
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の３本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（７）、新邸遺跡（８）、中道遺跡（５）、城山遺跡（３）、中野遺跡（２）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、

No.	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中　野	67,620㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城　山	82,100㎡	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄（草創～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造関連等
5	中　道	54,420㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800㎡	林	古墳?	古墳?	古墳?	なし
7	西原大塚	164,960㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前・後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新　邸	20,080㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄（早～中）、古（前・後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900㎡	林	貝塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	74,030㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	14,830㎡	宅地	集落跡	縄文、弥（後）～古（前）、平安、近世以降	住居跡、土坑?、溝跡?	弥生土器、土師器
12	馬　場	2,800㎡	畑	集落跡	古（前）	住居跡?	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900㎡	グランド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700㎡	水田	館跡	中世	溝跡・井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800㎡	宅地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡・方形周溝墓・土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大　原	1,700㎡	宅地	不明	近世以降?	溝跡	なし
17	上宿	8,600㎡	水田・宅地	集落跡	平安・中・近世	住居跡、溝跡	土師器、須恵器
合計		519,240㎡					

平成 31 年１月 31 日現在

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



令和２年１月31日現在

第１図　市域の地形と遺跡分布（１／20,000）

関根兵庫館跡(13)が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡(17)が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳（6）、城山貝塚（9）を加えた15遺跡である（第1図・第1表）。

（2）歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

1．旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6（1994）年度には2ヶ所、平成7年（1995）度には1ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。最新では、令和元（2019）年に第224地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14(1999～2002)年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。平成27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91㉑地点からは、礫群1基が検出された。

また、城山遺跡では、平成13（2001）年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の2ヶ所で石器集中地点が検出されている。平成20・21年に発掘調査が実施された第62地点（道路・駐車場部分）でも1ヶ所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23（2011）年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部で石器集中地点2ヶ所、礫群9基が検出された。令和元(2019)年には第96地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層で石器集中地点と礫群が検出されている。

2．縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6（1994）年に発掘調査が実施された城山第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18（2006）年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉（条痕文系）の10号住居跡1軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。最新資料では、平成23（2011）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとまって出土している。また、

城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚遺跡・新邸遺跡で住居跡（黒浜式期）、城山遺跡では住居跡（諸磯式期）が検出されている。そのうち、新邸遺跡・城山遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。平成２年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曽利Ｅ式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で 180 軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡１軒が確認されているが、平成 27（2016）年に発掘調査された中道遺跡第 76 地点からは、加曽利ＥⅣ式の両耳壷を出土する住居跡１軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡１軒と加曽利Ｂ式期の住居跡１軒、遺物集中地点１ヶ所、平成 25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第 85 地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）１軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 31 地点で、土坑１基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。最新資料として、平成 26（2015）年に発掘調査された西原大塚遺跡第 204 地点や平成 27･28（2016･2017）年に発掘調査された中野遺跡第 91 地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的まとまって出土している。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢＣ式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代後期まで空白の時代となる。

３．弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については、令和元（2019）年に発掘調査された城山遺跡第 96 地点で、市内初となる宮ノ台式期の住居跡１軒、方形周溝墓１基が検出された。住居跡からは、壷、甕、高坏、抉入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。

後期から古墳時代前期と考えられる遺跡が数多く検出されている。中でも、平成 27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第 91 地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が発見されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 31 地点の 21 号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壷形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が約 600 軒確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122 号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成 24（2012）年に発掘調査が実施された第 179 地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅釧が出土している。

昭和 62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の３遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、最新では、平成 15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第８地点と平成 18（2006）

年に実施された中道遺跡第 65 地点でも、それぞれ１基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10 号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成 11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第 45 地点では、一辺 20 mを超える市内最大規模の 17 号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壷、吉ヶ谷式系の壷、在地系の壷などと大きく畿内・比企地域・在地の３要素の特徴を示す壷が出土している。なお、鳥形土製品１と壷形土器４点の計５点は、考古資料として市指定文化財に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

４．古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第２地点の１号住居跡と平成 15（2003）年に発掘調査が実施された第８地点の２～８号住居跡は、古墳時代前期でも比較的に新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成７（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第 37 地点 19 号住居跡は、５世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

５世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に６世紀後半から７世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的に古い５世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、６世紀後半以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第８地点で初めて古墳時代後期（７世紀中葉）の住居跡が１軒検出されている。この住居跡は、３×3.5 mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、５世紀後半から７世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で約 230 軒、次いで中野遺跡で約 55 軒、中道遺跡と田子山遺跡で 16 軒ずつ、新邸遺跡で１軒を数える。

また住居跡以外では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 24 地点から、６世紀後半以降のものと考えられる 4.1 × 4.7 mの不整円形で２ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が１基確認されている。さらに、平成 14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第 81 地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約 33 mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

５．奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代

を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成８（1996）年に発掘調査が実施された第 35 地点の 128 号住居跡から、印面に「冨」１文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片１点、布目瓦の小破片２点などが出土している。平成 20・21（2008・2009）年の城山遺跡第 62 地点の調査では、平安時代の 241 号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶（ふじゅしんぽう）が２枚とその近くからは鉄鎌１点と土錘１点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された第 24 地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして 100 基を越える土坑群が検出されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された第 31 地点の 44 号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群（入間市）の製品と南比企窯跡群（鳩山町）の製品という生産地の異なる須恵器坏が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡 128 号住居跡出土の銅印ほか９点の遺物と城山遺跡第 241 号住居跡出土の冨壽神寶ほか２点の遺物は、考古資料として、平成 25 年３月１日付けで、市指定文化財に指定されている。

６．中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『たてむらきゅうき館村旧記』（註２）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻国雑記』（註３）に登場する『大石信濃守館（おおいししなのかみのかたち）』が「柏の城」に相当し、『大塚十玉坊（おおつかじゅうぎょくぼう）』についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山　1988・2002）。

また、平成７（1995）年に発掘調査が実施された第 29 地点の 127 号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成８（1996）年度に発掘調査が実施された第 35 地点から、鋳造関連の遺構が検出されている。130 号土坑については鋳造遺構、134 号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成 27・28（2015・2016）年に発掘調査された第 89 地点の調査により、第 35 地点の鋳造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鋳型、鍋の耳部分の小型鋳型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成 13(2001)年度の第 42 地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234 号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成６（1994）年度に発掘調査が実施された第 21 地点から、当市では初めて、鎧の札（よろいのさね）である鉄製品１点と鉄鏃１点が出土している。出土した遺構は、19 世紀前半の 86 号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成 11 ～ 14（1999 ～ 2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第 49 地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した 67 号土坑、その他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成 27（2015）年度に第 49 地点の北側に隣接する第 95 地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新たに土坑 45 基・井戸跡 2 基・溝跡 1 本・ピット 231 本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「T 字形」の火葬土坑 5 基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和 62（1987）年の第 2 地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成 7（1995）年の中道遺跡第 37 地点からは、人骨と古銭 5 枚を出土した土坑墓 1 基と 13 世紀に比定される青磁盤 1 点を出土した道路状遺構 1 条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和 60（1985）年の第 1 地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成 15（2003）年の新邸遺跡第 8 地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓 2 基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院」関連遺構と考えられる。その後、平成 25（2013）年には、第 74 地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

7．近代以降

近代以降の遺跡では、平成 5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 31 地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治 2 ～ 5 年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成 15（2003）年の新邸遺跡第 8 地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

［註］

註 1　平成 26 年度「全国都道府県市区町村別面積調」により、9.06㎢から 9.05㎢に変更された。

註 2 『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門仲恒が、享保 12 ～ 14（1727 ～ 1729）年にかけて執筆したものである。

註 3 『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明 18 年（1486）6 月から 10 ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

［引用文献］

神山健吉　1988「「廻回雑記」に現れる　大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第 7 号
2002「道興をめぐる二つの誤説を糾す」『郷土志木』第 31 号

第２節　遺跡の概要

西原大塚遺跡は、志木市の南西端部にある幸町２～４丁目一帯に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の西方約１km に位置している。北東―南西方向に約 700m、北西―南東方向に約 150m の広がりをもち、遺跡面積 164,960㎡の市内最大規模の遺跡である。

本遺跡は、柳瀬川を北西に望む武蔵野台地北東端の台地の縁辺に形成されている。標高は 10 ～ 18m と遺跡内で８m の比高差があるが、遺跡範囲の大部分は標高 14 ～ 16m に位置しており、おおむね緩やかな傾斜をもち台地から低地に移行している。遺跡北西部分の台地下では、今でも小規模な湧水点が確認されている。

昭和 48（1973）年に最初の調査が実施されて以降、志木市教育委員会、志木市遺跡調査会、志木市史編さん室による度重なる調査が実施されてきた。平成元（1989）年から平成 19（2007）年までは、西原特定土地区画整理事業に伴い、道路新設部分を中心に公園予定地・保留地を対象とした発掘調査が継続的に実施された。近年では区画整理事業の完了に伴い、共同住宅や分譲住宅、個人住宅の建設などの各種土木工事が盛期を迎え、それらに伴う発掘調査も増加傾向にある。令和元年 12 月現在で、228 地点に対して確認調査・発掘調査を実施している（第２図）。

これまでの調査の結果、旧石器時代から近世までの複合遺跡であることが判明している。特に、縄文時代中期では住居跡約 180 軒からなる大規模な環状集落跡が形成され、また弥生時代後期から古墳時代前期では住居跡 600 軒からなる大規模集落跡が形成されていたことが判明している。

第２章　発掘調査の概要

第１節　調査に至る経緯

平成 29 年９月、ＪＡあさか野から志木市教育員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は道路新設工事（西原大塚遺跡第 220 地点として先行して対応）と志木市幸町２丁目 6286- 2（面積 379.57㎡）地内に分譲住宅建設を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である西原大塚遺跡（コード 11228 － 09 － 007）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

１．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

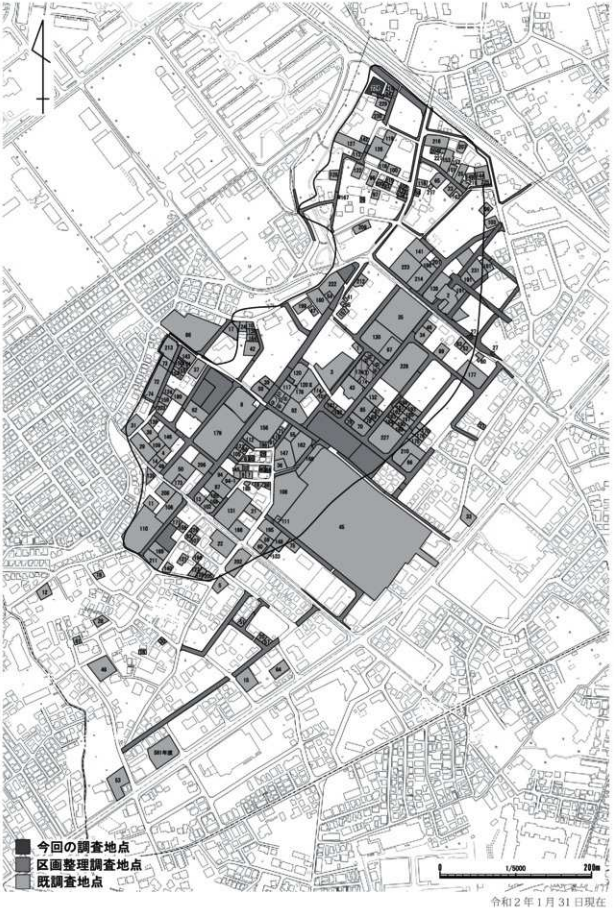
２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

平成 30 年 10 月１日、教育委員会は、土木工事主体者である個人より確認調査依頼書を受理し、西原大塚遺跡第 224 地点として、10 月 29 日に確認調査を実施した。確認調査は、第３図に示すように調査区東西方向に３本（１～３Ｔｒ）、南北方向に１本のトレンチ（４Ｔｒ）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、中世以降の土坑 12 基・柱穴５本、中世の段切状遺構等を確認した。調査区全体に段切状遺構の整地面が展開しており、その整地面を基盤に複数の土坑・ピットなどが分布しているものと想定された。教育委員会は、この結果をただちに土木工事主体者に報告し、保存措置について検討を依頼した。

12 月 18 日に土木工事主体者と埋蔵文化財の保存措置について協議を行った。その結果、今回の工事内容については十分な文化財保護層が確保できないことから、発掘調査を実施することに決定した。12 月 21 日、土木工事主体者より志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出されたため、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第２条第２項に基づき、平成 31 年４月 23 日に発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。４月 26 日、志木市と土木工事主体者の間で志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書が取り交わされ、同日に委託契約を締結した。

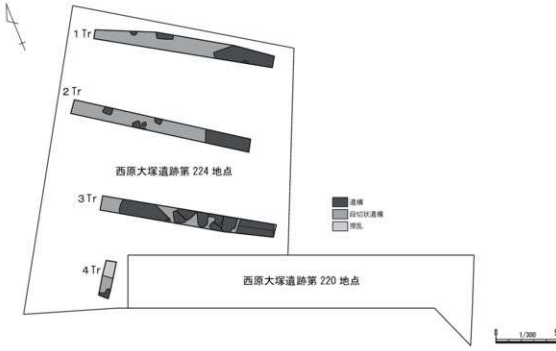
また、調査主体者となる教育委員会は、発掘調査の実施にあたり、民間調査組織の支援を受けることとし、４月 23 日に競争入札を行った。その結果、支援を依頼する民間調査組織が関東文化財振興会株式会社（代表取締役　宮田和男）に決定し、４月 26 日に委託契約を締結した。

教育委員会は、４月 26 日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出した。以上により、教育委員会を調査主体に、５月 21 日から発掘調査を実施した。



令和２年１月31日現在

第２図　西原大塚遺跡の調査地点（１／5,000）



第３図　確認調査時の遺構分布（１／300）

第２節　調査の経過

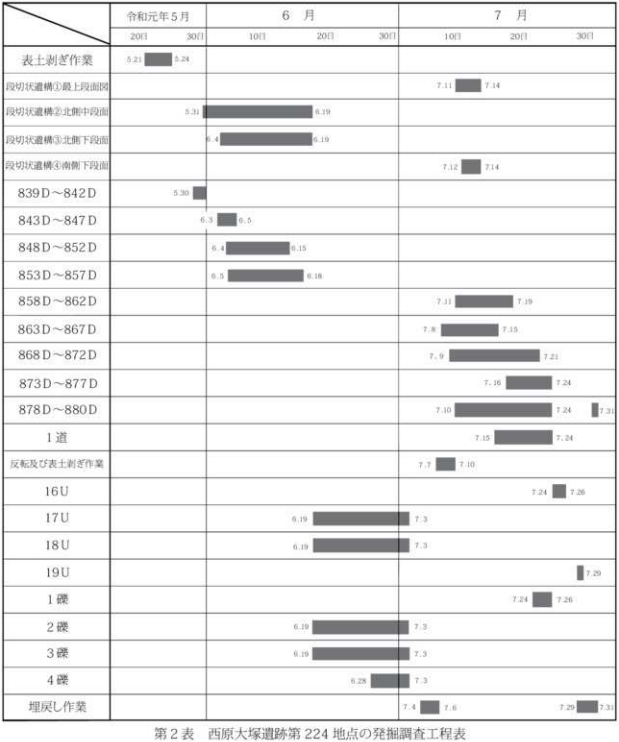
ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第２表の発掘調査工程表に示した。

５月期　調査区の周囲に囲いを設置後、21 日より重機による表土掘削を開始、24 日に表土掘削を完了した。続けて調査区整備や木根の周囲の掘削、遺構確認作業を行い 30 日に検出状況の写真撮影を行った。31 日から調査区北東側より土坑やピットの掘削を進めている。

６月期　引き続き土坑やピットの掘削を進め、６日に段切状遺構の上面の北側の完掘、測量を行った。続けて段切状遺構に切られる遺構の掘削及び段切状遺構の掘り方掘削に取り掛かった。段切状遺構の掘り方は東側で溝状となり、一部において小礫が集中する部分を検出している。19 日に段切状遺構の掘り方を完掘し、写真撮影や測量を行った。同日、７号ピットの壁に礫が確認されていたことから、調査区北東側にテストピットを設置して、慎重に旧石器時代の調査を行った。20 日に礫群や黒曜石などが出土し、写真撮影や測量を行っている。引き続いて掘り下げを行った結果、第Ⅶ層において、礫群や黒色チャートなどが出土した。また、21 日に TP01 南側の TP02 で小規模な礫群が出土している。TP01 は 28 日に写真撮影、測量を行い、再度掘り下げを進めている。

７月期　３日に壁際のみ掘り下げてⅩ層まで到達し、写真撮影、測量を行った。また、並行して進めていた TP03 も掘削は終了したが遺物は出土しなかった。４日に調査区北側の発掘調査は終了して、埋め戻し後調査区南側を重機により掘削を７日に開始した。大きな攪乱が多く 10 日に表土掘削は終了し、

11 日に確認精査を行って調査区南東側から遺構掘削を開始した。中央部に円形のプランや土坑、ピットの掘削を進め、調査区南端に硬化面や大きな掘り込みを確認している。調査の結果円形のプランは地下式坑の縦坑部と判明している。15 日から調査区南端の 1 号道路状遺構の掘削を開始した。24 日に調査区南側の掘削が終了し、写真撮影、測量を行った後、TP04 を調査区南壁に設定して掘削した。TP04 から、黒曜石や礫群が検出されている。また、29 日に調査区南西側に TP05 を設置し掘削したが、石器が数点出土している。同時にそのほかの部分の埋め戻し作業を進め、31 日に重機により 878 ～ 880 号土坑の立ち割りを行い、同日埋め戻しが完了して発掘調査は終了した。



第２表　西原大塚遺跡第 224 地点の発掘調査工程表

第３節　基本層序

本遺跡における基本層序（第４図）については、第Ⅰ層表土（耕作土）の下に、立川ローム第Ⅳ層から第Ⅹ層まで確認した。第Ⅱ・Ⅲ層は段切状遺構の造成による削平を受けていると思われ、確認できなかった。また、第Ⅳ層上面も同様に削平を受けている。

第Ⅳ層　黄褐色のハードローム最上層

第Ⅴ層　淡暗褐色のハードローム層、第１黒色帯（ＢＢⅠ）

第Ⅵ層　ＡＴを含むハードローム層

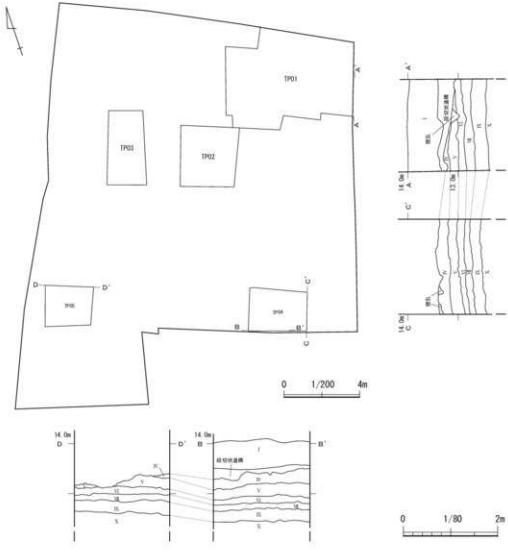
第Ⅶ層　暗褐色ハードローム層、第２黒色帯（ＢＢⅡ）

第Ⅷ層　黄褐色のハードローム層、第Ⅶ層と第Ⅸ層の間に、ブロック状に点在する。

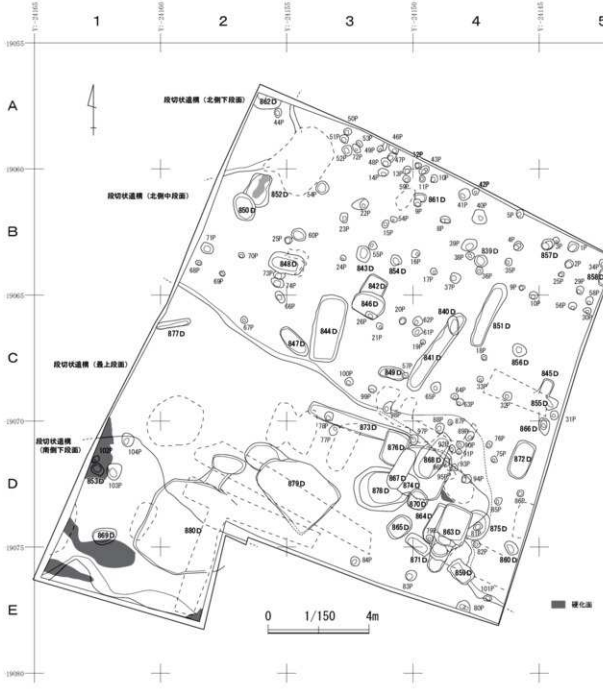
第Ⅸ層　暗褐色ハードローム層、粘性を帯びる第２黒色帯（ＢＢⅡ）で第Ⅶ層よりも色調が暗い。

第Ⅸ'層　黄褐色のハードローム層、第Ⅸ層下部にブロック状に点在する。

第Ⅹ層　黄橙色ハードローム層、小礫を僅かに含み、赤色スコリア・第Ⅸ層土を少量含む。



第４図　基本層序（１／200・１／80）



第５図　遺構分布図（1/150）

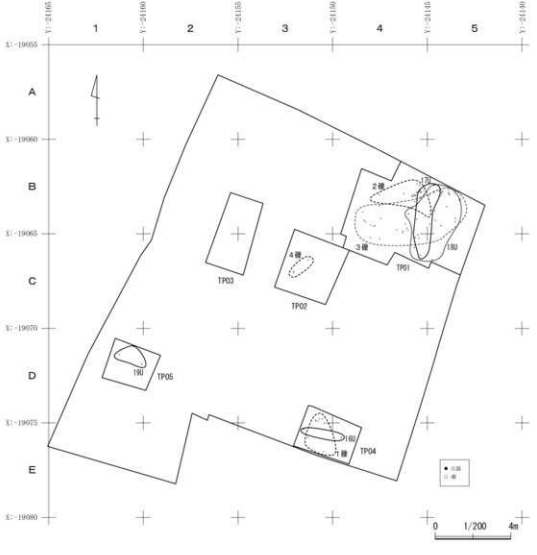
第３章　検出された遺構と遺物

第１節　旧石器時代の遺構・遺物

（1）概　要

旧石器時代の調査は、調査区内に５か所のテストピット（ＴＰ 01 ～ 05）を設定し、精査を行った結果、石器 22 点、礫 65 点の計 87 点の遺物が出土した。遺構としては、石器集中地点４か所（16 ～ 19 号石器集中地点）、礫群４か所（１～４号礫群）が検出された（第６図）。なお、16 号石器集中地点および１号礫群は、南側に隣接する西原大塚遺跡第 220 地点で一部検出されており、今回の調査では、それらの北半分が検出された。

遺構を層位的にみると、16・17・19 号石器集中地点、１・２号礫群が立川ローム層第Ⅳ～Ⅴ



第６図　旧石器調査地点（１／200）

層、18 号石器集中地点、３・４号礫群が立川ローム層第Ⅵ～Ⅶ層から検出されている。このことから、今回の調査では、２時期の文化層が確認できた。

立川ローム層第Ⅳ～Ⅴ層の文化層では、石器 10 点、礫 29 点が出土し、石器の内訳はナイフ形石器２点、敲石１点、剥片７点である。石器石材別では、黒曜石７点、チャート２点、砂岩１点である。

立川ローム層第Ⅵ～Ⅶ層の文化層では、石器 12 点、礫 36 点が出土し、石器の内訳は彫器１点、石核１点、剥片 10 点である。石器石材別では、ガラス質黒色安山岩７点、頁岩３点、珪質頁岩２点である。

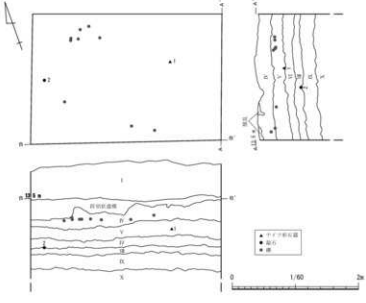
（２）石器集中地点

16 号石器集中地点

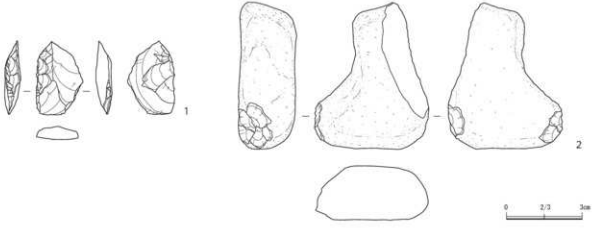
遺　構　（第７図）

［位　　置］（Ｅ－３・４）グリッド。ＴＰ 04 から検出。

［平面分布］　東西に 2.0 ｍの距離で石器が２点確認された。ＴＰ 04 南側に隣接する西原大塚遺跡第 220 地点で剥片が２点出土しており、散漫に分布する。１号礫群の外縁に分布している。



第７図　16 号石器集中地点（1／60）



第８図　16 号石器集中地点出土石器（２／３）

挿図番号 図版番号	遺物番号	器　種	石　材	遺存状況	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　　徴
第８図１ 図版 11-1-1	16U-1	ナイフ形 石器	黒曜石	完　形	2.9	1.9	0.6	2.5	切出形／二側縁加工／右刃／横長の不定形剥片素材／素材のバルバースカー残る
第８図２ 図版 11-1-2	16U-2	敲　石	砂　岩	完　形	4.6	5.9	1.9	64.0	不定形な礫素材／左右両端部に敲打痕

第３表　16 号石器集中地点出土石器一覧

［出土層位］　１は標高 13.00 mから出土している。立川ローム第Ⅴ層に相当する。２は標高 12.75 m から出土し、立川ローム第Ⅶ層に相当している。本石器集中地点には伴わない可能性がある。

［出土石器］　今回出土した石器の総点数は２点である。内訳はナイフ形石器１点、敲石１点である。石材はナイフ形石器が黒曜石、敲石が砂岩である。

遺　物　（第８図、図版 11 －１、第３表）

１は黒曜石製の切出形を呈するナイフ形石器である。横長の不定形剥片を素材とし、左右側縁に二次加工が施される。２は敲石である。不定形な礫を素材とし、左右両端部に敲打痕を有する。

17 号石器集中地点

遺　構　（第９図）

［位　　置］（Ｂ・Ｃ－４・５）グリッド。ＴＰ 01 から検出。

［平面分布］　南北 0.41 m、東西 0.80 mの範囲に石器４点が集中して分布する。また、集中域から南側に 3.4 m離れて石器が１点確認された。集中域は２号礫群と平面分布が重なっている。

［出土層位］　標高 13.00 ～ 13.07 mから出土している。立川ローム第Ⅴ層下部に相当する（第９図の断面に示した垂直分布は、微地形のよる地形の起伏の影響により、Ａ－Ａ ′、Ｂ－Ｂ ′で誤差がある。Ａ－Ａ ′の垂直分布が実際の出土層位に近いと考えられる）。２号礫群の垂直分布と重なっている。

［出土石器］　出土した石器の総点数は５点である。内訳はナイフ形石器１点、剥片４点である。石材はすべて黒曜石である。接合関係については、２と５の剥片が接合した。

遺　物　（第 10 図、図版 11 －２、第４・５表）

１は黒曜石製の切出形を呈するナイフ形石器である。縦長の不定形剥片を素材とし、素材剥片の末端側を刃部とし、左右側縁に二次加工が施される。２～５は黒曜石の剥片で、いずれも不定形剥片である。２と５は接合資料、３は左側縁が斜めに折れており、背面に節理面を有する。４は単打面を有する横長剥片で、打面には頭部調整が施される。

18 号石器集中地点

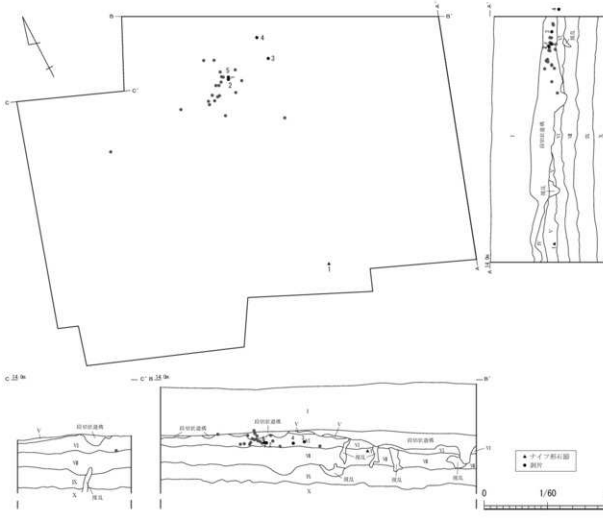
遺　構　（第 11 図）

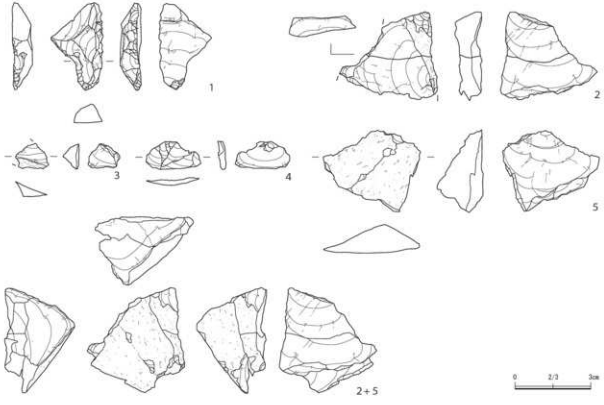
［位　　置］（Ｂ・Ｃ－４・５）グリッド。ＴＰ 01 から検出。

［平面分布］　北部の南北 3.62 m、東西 2.63 mの範囲に確認された。３号礫群の東側と平面分布が重なっている。

［出土層位］　東部標高値 12.66 ～ 13.0m から出土している。立川ローム第Ⅵ層上部～第Ⅶ層下部に相当する。３号礫群の垂直分布と重なっている。

［出土石器］　出土した石器の総点数は 12 点である。内訳は彫器１点、石核１点、剥片 10 点である。


B
B'
C
C'
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
段状状遺構
C 35.9m
C' B 35.9m
B' 35.9m
V
VI
VII
VIII
IX
X
XI
XII
XIII
XIV
XV
XVI
XVII
XVIII
XIX
XX
XXI
XXII
XXIII
XXIV
XXV
XXVI
XXVII
XXVIII
XXIX
XXX
XXXI
XXXII
XXXIII
XXXIV
XXXV
XXXVI
XXXVII
XXXVIII
XXXIX
XXXX
XXXXI
XXXXII
XXXXIII
XXXXIV
XXXXV
XXXXVI
XXXXVII
XXXXVIII
XXXXIX
XXXXX
XXXXXI
XXXXXII
XXXXXIII
XXXXXIV
XXXXXV
XXXXXVI
XXXXXVII
XXXXXVIII
XXXXXIX
XXXXXX
XXXXXXI
XXXXXXII
XXXXXXIII
XXXXXXIV
XXXXXXV
XXXXXXVI
XXXXXXVII
XXXXXXVIII
XXXXXXIX
XXXXXXX
XXXXXXXI
XXXXXXXII
XXXXXXXIII
XXXXXXXIV
XXXXXXXV
XXXXXXXVI
XXXXXXXVII
XXXXXXXVIII
XXXXXXXIX
XXXXXXXX
XXXXXXXXI
XXXXXXXXII
XXXXXXXXIII
XXXXXXXXIV
XXXXXXXXV
XXXXXXXXVI
XXXXXXXXVII
XXXXXXXXVIII
XX



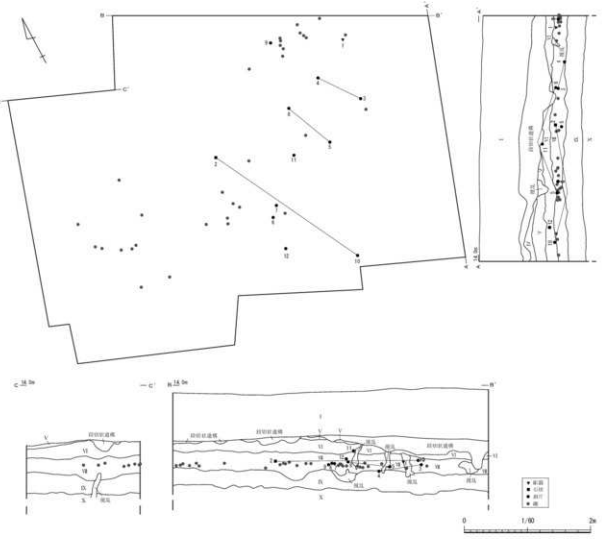
第 10 図　17 号石器集中地点出土石器（２／３）

挿図番号 図版番号	遺物番号	器　種	石　材	遺存状況	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　　徴
第 10 図 1 図版 11-2-1	TP01 NO.24	ナイフ形 石器	黒曜石	完　形	3.5	2.1	0.8	0.8	切出形／素材剥片の末端側を刃部とする／左刃／二側縁加工
第 10 図 2 図版 11-2-2	TP01 NO.1	剥　片	黒曜石	完　形	3.4	3.9	1.1	8.7	折れ面で接合／５と接合する
第 10 図 3 図版 11-2-3	TP01 NO.2	剥　片	黒曜石	完　形	0.9	1.3	0.6	0.6	左側縁が斜めに折れ／節理面あり
第 10 図 4 図版 11-2-4	TP01 NO.3	剥　片	黒曜石	完　形	1.1	2.2	0.3	0.5	単打面／横長／頭部調整
第 10 図 5 図版 11-2-5	TP01 NO.23	剥　片	黒曜石	完　形	3.2	3.8	1.8	11.7	単打面／２と接合する

第４表　17 号石器集中地点出土石器一覧

挿図番号 図版番号	遺物番号	石　材	遺存状況	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　　徴
第 10 図 6 図版 11-2-6	接合資料　２＋５	黒曜石	完　形	4.10	3.90	2.70	20.4	２と５が結合

第５表　17 号石器集中地点出土接合資料一覧



第 11 図　18 号石器集中地点（1／60）

19 号石器集中地点

遺　構　（第 13 図）

［位　　置］（D－1）グリッド。ＴＰ 05 から検出。

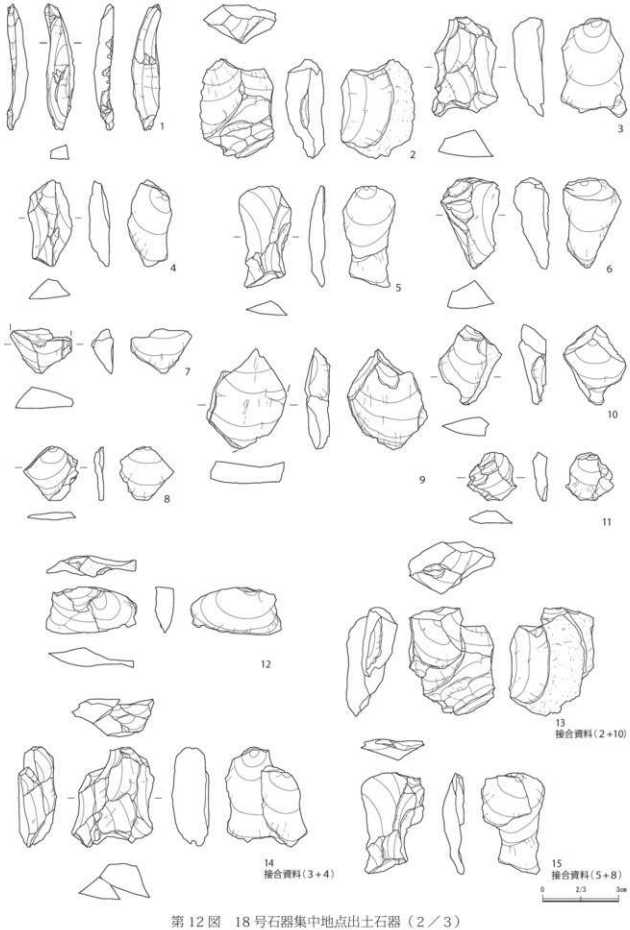
［平面分布］南北 0.71 m、東西 1.34 mの範囲に確認された。

［出土層位］標高 13.06 ～ 13.27 mから出土している。立川ローム第Ⅳ～Ⅴ層に相当する。

［出土石器］出土した石器は、剥片３点である。石材は黒曜石１点、チャート２点である。接合関係は認められなかった。

遺　物　（第 14 図、図版 13 － 1 、第８表）

１はチャート製の縦長剥片で、単打面を有する。原礫面が背面に残る。２はチャート製の縦長剥片である。打面部を欠損する。末端部はヒンジフラクチャーになっている。３は黒曜石製の剥片で、背面の上下両端に連続する小剥離面が認められる。



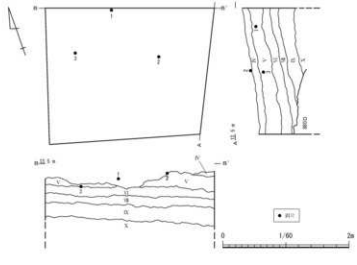
第 12 図　18 号石器集中地点出土石器（２／３）

挿図番号 図版番号	遺物番号	器　種	石　材	遺存状況	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　　徴
第 12 図 1 図版 12-1	18U NO.2	彫　器	頁　岩	完　形	4.9	1.2	0.6	3.0	横長の不定形剥片素材／先端からた側縁にかけて階状剥離が２回施される
第 12 図 2 図版 12-2	18U NO.1 NO.12	石　核	ガラス質 黒色安山岩	完　形	3.9	3.3	1.5	14.5	裏面に原礫面あり／ 10 の剥片と接合
第 12 図 3 図版 12-3	18U NO.1	剥　片	ガラス質 黒色安山岩	完　形	3.9	2.6	1.2	10.5	複剥離打面／単打面／４の剥片と接合
第 12 図 4 図版 12-4	18U NO.3	剥　片	ガラス質 黒色安山岩	完　形	3.4	1.7	0.8	4.4	複剥離打面／単打面／３の剥片と接合
第 12 図 5 図版 12-5	18U NO.4	剥　片	頁　岩	完　形	4.0	2.5	0.8	3.4	線打面／８の剥片と接合
第 12 図 6 図版 12-6	18U NO.6	剥　片	ガラス質 黒色安山岩	完　形	3.6	2.3	1.4	7.0	複剥離打面
第 12 図 7 図版 12-7	18U NO.7	剥　片	ガラス質 黒色安山岩	完　形	1.8	2.5	0.8	1.9	末端部
第 12 図 8 図版 12-8	18U NO.9	剥　片	頁　岩	完　形	2.1	2.2	0.2	1.0	線打面／５の剥片と接合
第 12 図 9 図版 12-9	18U NO.10	剥　片	ガラス質 黒色安山岩	完　形	4.0	3.1	1.0	12.2	上端部、左側縁を欠損／末端はヒンジフラクチャー
第 12 図 10 図版 12-10	18U NO11	剥　片	ガラス質 黒色安山岩	完　形	3.3	2.5	1.0	6.0	複剥離打面／２の石核と接合
第 12 図 11 図版 12-11	18U NO.8	剥　片	珪質頁岩	完　形	1.9	1.9	0.6	1.4	単打面
第 12 図 12 図版 12-12	18U NO.5	剥　片	珪質頁岩	完　形	1.9	3.5	0.7	4.5	複剥離打面

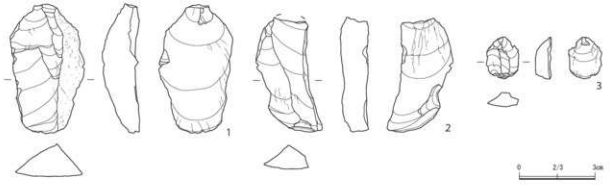
第６表　18 号石器集中地点出土石器一覧

挿図番号 図版番号	遺物番号	石　材	遺存状況	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　　徴
第 12 図 13 図版 12-13	接合資料　2＋10	ガラス質 黒色安山岩	完　形	3.3	3.4	2.0	20.5	2と 10が結合
第 12 図 14 図版 12-14	接合資料　3＋4	ガラス質 黒色安山岩	完　形	3.9	3.2	1.5	14.9	3と４が結合
第 12 図 15 図版 12-15	接合資料　5＋8	頁　岩	完　形	4.0	2.5	0.8	4.4	5と８が結合

第７表　18 号石器集中地点出土接合資料一覧



第 13 図　19 号石器集中地点（１／60）



第 14 図　19 号石器集中地点出土石器（２／３）

挿図番号 図版番号	遺物番号	器　種	石　材	遺存状況	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　　徴
第 14 図 1 図版 13-1-1	TP05 NO.1	剥　片	チャート	完　形	5.1	2.9	1.5	14.8	単打面／背面に原礫面
第 14 図 2 図版 13-1-2	TP05 NO.2	剥　片	チャート	一部欠損	4.6	2.7	1.1	9.0	打面部欠損／末端はヒンジフラクチャー
第 14 図 3 図版 13-1-3	TP05 NO.3	剥　片	黒曜石	完　形	1.7	1.3	0.6	0.9	背面の上下両端に連続する小剥離面

第８表　19 号石器集中地点出土石器一覧

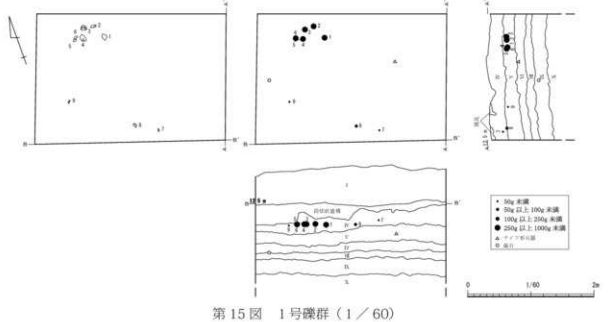
（３）礫　群

１号礫群

遺　構　（第 15 図、第９表）

［位　　置］（Ｄ・Ｅ－３）グリッド。ＴＰ 04 から検出。

［平面分布］　南北 1.7 m、東西 1.34 mの範囲で確認された。北側で拳大程度の礫が集中し、南側では破砕礫が点在する。ＴＰ 04 南側に隣接する西原大塚遺跡第 220 地点で破砕礫が３点出土しており、こ



第 15 図　１号礫群（１／60）

出土番号	遺物番号	器種	石材	遺存状況（%）	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	備考
1	TP04-NO1	礫	砂岩	30	10.89	8.41	4.68	373.0	○	－	－	－	
2	TP04-NO2	礫	砂岩	30	9.77	3.86	5.48	261.0	○	－	○	－	
3	TP04-NO3	礫	砂岩	60	8.43	9.73	5.77	515.0	○	－	○	－	
4	TP04-NO4	礫	砂岩	90	12.32	9.61	5.14	745.0	○	－	○	－	5と接合
5	TP04-NO5	礫	砂岩	10	2.78	5.29	1.71	29.0	○	－	○	－	4と接合
6	TP04-NO6	礫	砂岩	90	9.23	6.49	3.82	320.0	○	－	○	－	
7	TP04-NO8	礫	砂岩	5	4.95	2.29	1.03	12.5	○	△	○	△	
8	TP04-NO9	礫	砂岩	10	7.21	4.31	1.68	57.0	△	－	－	－	
9	TP04-NO10	礫	砂岩	5	4.55	5.51	1.83	49.5	△	－	－	－	

（○：あり　△：僅かにあり　－：なし）

第９表　１号礫群出土礫一覧

れらも点在した分布を示している。16 号石器集中地点が本礫群の外縁に分布する。

［出土層位］　標高 13.14 ～ 13.24 mから出土している。立川ローム第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部に相当する。

［礫 構 成］　今回出土した礫点数は９点である。いずれも破砕礫である。石材はすべて砂岩である。重量別の組成では 50 g未満が３点、50 ～ 100 gが１点、100 g以上が５点である。礫表面の状態では、表面・破断面が赤化するものが６点、表面のみ赤化するもの３点であった。黒色の煤状付着物が付着するものは１点である。接合関係は４・５の礫で認められた。

２号礫群

遺　　構　（第 16 図、第 10 表）

［位　　置］　（Ｂ－４・５）グリッド。ＴＰ 01 から検出。

［平面分布］　南北 1.34 m、東西 1.36 mの範囲で確認された。17 号石器集中地点と平面分布が重なっている。

［出土層位］　標高地 12.89 ～ 13.14m から出土している。立川ローム層第Ⅳ層下部～Ⅴ層下部に相当する。17 号石器集中地点と垂直分布が重なっている。

［礫 構 成］　出土した礫点数は 21 点である。完形礫は１点で、それ以外は破砕礫である。石材は砂岩 21 点である。重量別の組成では 50 g未満が６点、50 ～ 100 gが６点、100 g以上が９点である。礫表面の状態では、表面・破断面が赤化するものが 16 点、表面のみ赤化するもの４点であった。黒色の煤状付着物が付着するものは 19 点である。出土した礫同士に接合関係は認められなかった。

３号礫群

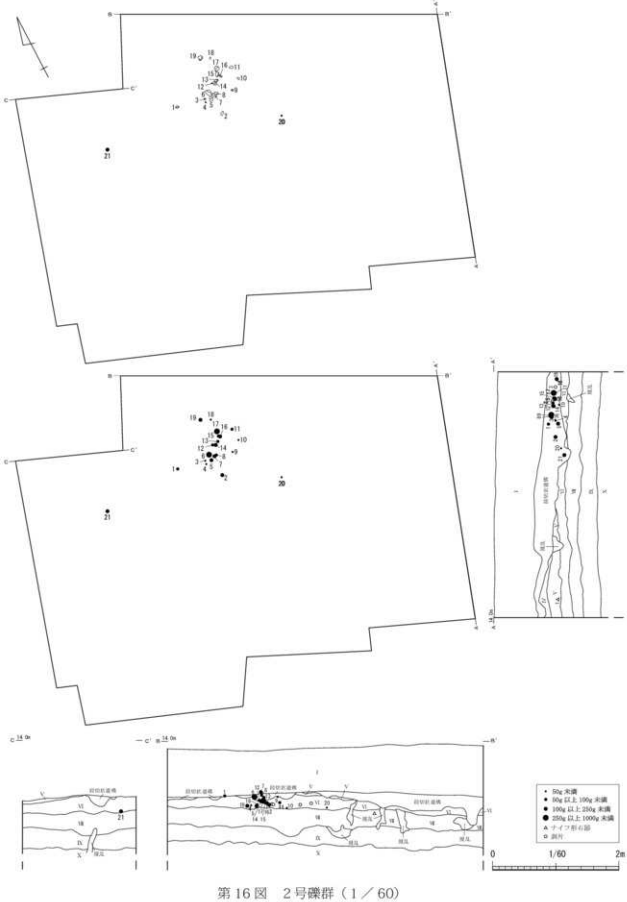
遺　　構　（第 17 図、第 11 表）

［位　　置］　（Ｂ・Ｃ－４、Ｂ－５）グリッド。ＴＰ 01 から検出。

［平面分布］　南北 2.60 m、東西 5.20 mの範囲で確認された。そのうち、東側で南北 0.50 m、東西 1.56 mの範囲で礫の集中域が認められる。東側から中央部にかけて 18 号石器集中地点と平面分布が重なっている。

［出土層位］　標高 12.66 ～ 12.80 mから出土している。立川ローム第Ⅵ層下部～第Ⅶ層下部に相当する。18 号石器集中地点と垂直分布が重なっている。

［礫 構 成］　出土した礫点数は 33 点である。完形礫は４点で、それ以外は破砕礫である。石材は砂岩 24 点、チャートが７点、頁岩が１点、ホルンフェルスが１点である。重量別の組成では 50 g未満が 11 点、



第 16 図　２号礫群（1／60）

出土番号	遺物番号	器　種	石　材	遺存状況（%）	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	赤　化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	備　考
1	TP01-N04	礫	砂　岩	20	7.0	3.8	2.7	74.8	○	△	○	△	
2	TP01-N05	礫	砂　岩	20	6.8	5.3	2.5	115.1	△	△	△	△	
3	TP01-N06	礫	砂　岩	5	3.0	2.7	1.0	9.1	○	△	○	△	
4	TP01-N07	礫	砂　岩	5	3.3	2.5	1.9	13.7	○	△	○	△	
5	TP01-N08	礫	砂　岩	30	6.6	4.7	4.2	139.0	○	△	○	△	
6	TP01-N09	礫	砂　岩	100	10.8	7.1	5.6	471.0	△	△	－	－	
7	TP01-N010	礫	砂　岩	40	8.3	5.2	4.3	216.0	○	△	○	△	
8	TP01-N011	礫	砂　岩	60	6.4	3.3	2.6	79.0	○	△	－	－	
9	TP01-N012	礫	砂　岩	5	2.8	2.4	0.7	7.0	△	○	△	○	
10	TP01-N013	礫	砂　岩	10	4.3	4.2	2.3	35.0	○	△	○	△	
11	TP01-N014	礫	砂　岩	20	6.8	3.6	3.3	82.5	△	△	－	－	
12	TP01-N015	礫	砂　岩	20	7.2	4.4	3.8	87.5	○	△	○	△	
13	TP01-N016	礫	砂　岩	5	6.4	4.0	3.7	98.0	○	△	○	△	
14	TP01-N017	礫	砂　岩	10	4.8	4.6	4.0	109.0	－	－	－	－	
15	TP01-N018	礫	砂　岩	10	5.6	5.4	3.7	87.5	△	△	△	△	
16	TP01-N019	礫	砂　岩	95	7.4	5.8	2.9	159.0	○	△	○	－	
17	TP01-N020	礫	砂　岩	40	8.4	6.8	4.4	334.5	△	○	－	○	
18	TP01-N021	礫	砂　岩	5	3.7	2.3	1.4	10.5	○	△	○	△	
19	TP01-N022	礫	砂　岩	40	7.6	7.0	3.5	212.0	○	○	○	○	
20	TP01-N025	礫	砂　岩	5	4.6	2.1	2.3	21.5	△	△	△	△	
21	TP01-N055	礫	砂　岩	55	6.21	5.93	4.49	168.5	○	－	△	－	

（○：あり　△：僅かにあり　－：なし）

第 10 表　２号礫群出土礫一覧

50～100 g が５点、100 g 以上が 17 点である。礫表面の状態では、表面・破断面が赤化するものが 27 点、表面のみ赤化するもの６点であった。黒色の煤状付着物が付着するものは 16 点である。接合関係については、１～３の礫、７・９・11・12 の礫、10・14・17 の礫で認められた。

４号礫群

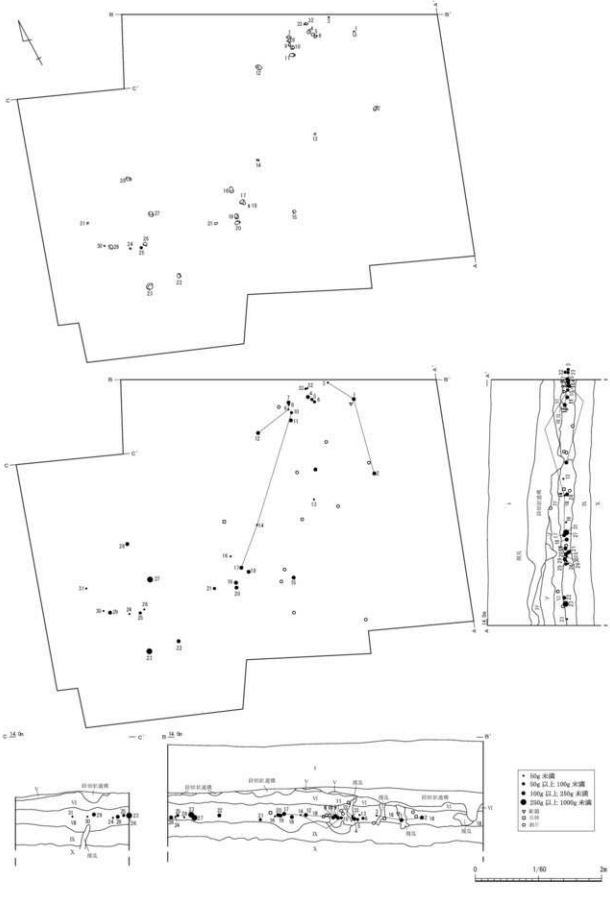
遺　　構　（第 18 図、第 12 表）

［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。ＴＰ 02 から検出。

［平面分布］南北 1.04 m、東西 0.44 m の範囲で確認された。

［出土層位］標高 12.77 m から出土している。立川ローム第Ⅶ層に相当する。

［礫 構 成］出土した礫点数は３点である。いずれも破砕礫である。石材は砂岩である。重量別の組成では 50 g 未満が１点、100 g 以上が２点である。礫表面の状態では、表面・破断面が赤化するものが３点、黒色の煤状付着物が付着するものは１点である。１～３の礫で接合関係が認められた。

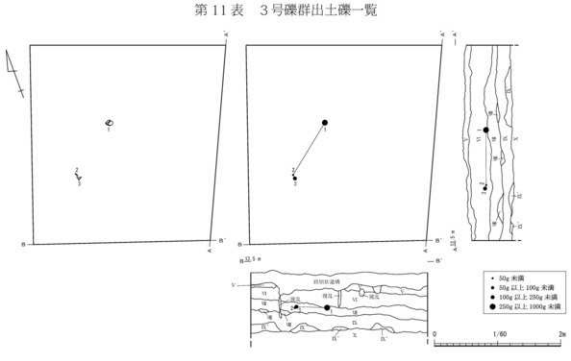


第 17 図　３号礫群（1／60）

出土番号	遺物番号	器　種	石　材	遺存状況（%）	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	赤　化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	備　考
1	TP01-N026	礫	砂　岩	20	7.7	3.1	4.3	115.5	○	△	○	△	2・3と接合
2	TP01-N027	礫	砂　岩	10	7.6	4.4	4	114.0	○	△	○	△	1・3と接合
3	TP01-N028	礫	砂　岩	10	7.4	3.8	3.7	117.5	○	△	○	△	1・2と接合
4	TP01-N029	礫	ホルンフェルス	100	7.4	5.6	2.7	163.5	△	△	－	－	
5	TP01-N030	礫	砂　岩	50	6.0	4.5	2.8	95.0	△	△	△	△	
6	TP01-N031	礫	砂　岩	10	6.5	3.4	3	67.4	○	△	○	△	
7	TP01-N032	礫	チャート	40	7.6	4.2	3.6	122.1	△	－	△	－	9・11・12と接合
8	TP01-N033	礫	砂　岩	5	6.4	5.1	2.8	47.5	△	△	－	△	
9	TP01-N034	礫	チャート	5	4.8	3.2	1.3	27.3	△	－	△	－	7・11・12と接合
10	TP01-N035	礫	砂　岩	50	6.4	3.5	1.4	51.0	○	△	○	△	14・17と接合
11	TP01-N036	礫	チャート	60	8.7	5.1	3.2	171.0	△	－	△	－	7・9・12と接合
12	TP01-N037	礫	チャート	10	9.2	7.1	3.5	225.0	△	－	△	－	7・9・11と接合
13	TP01-N039	礫	砂　岩	5	3.8	2.6	1.7	13.0	○	－	○	－	
14	TP01-N040	礫	砂　岩	40	4.3	2.4	0.5	7.0	△	△	△	△	10・17と接合
15	TP01-N041	礫	チャート	100	7.7	6	4.8	233.0	○	○	－	－	
16	TP01-N042	礫	頁　岩	90	9.73	6.35	4.36	29.2	△	－	△	－	
17	TP01-N043	礫	砂　岩	60	8.53	6.71	3.04	167.5	○	△	△	－	10・14と接合
18	TP01-N044	礫	砂　岩	30	5.84	5.44	4.81	215.9	△	△	－	△	
19	TP01-N045	礫	砂　岩	100	7.28	5.86	3.41	183.0	△	△	－	△	
20	TP01-N046	礫	砂　岩	90	7.86	5.71	4.16	205.9	○	△	△	－	
21	TP01-N047	礫	砂　岩	15	5.31	3.61	3.00	67.1	○	△	△	△	
22	TP01-N048	礫	砂　岩	95	6.1	7.58	2.62	127.4	△	－	－	－	
23	TP01-N049	礫	チャート	70	7.93	9.92	7.55	723.0	△	－	△	－	
24	TP01-N050	礫	砂　岩	5	2.12	2.83	2.09	17.9	○	－	△	－	
25	TP01-N051	礫	砂　岩	50	5.01	6.11	2.69	99.4	○	△	△	－	
26	TP01-N052	礫	砂　岩	10	6.32	1.85	2.02	28.6	○	－	△	－	
27	TP01-N053	礫	砂　岩	95	7.98	7.82	3.81	286.5	○	－	△	－	
28	TP01-N054	礫	チャート	100	7.74	5.01	3.85	221.6	△	－	△	－	
29	TP01-N056	礫	砂　岩	50	6.54	7.13	4.54	204.8	○	－	△	－	
30	TP01-N057	礫	砂　岩	5	1.63	4.78	2.86	29.3	○	－	△	－	
31	TP01-N058	礫	砂　岩	5	3.47	2.39	1.83	18.0	○	－	△	－	
32	TP01-N059	礫	砂　岩	5	2.73	3.19	1.39	10.8	○	－	△	－	
33	TP01-N060	礫	砂　岩	10	3.36	3.51	1.85	24.2	○	－	△	－	

（○：あり　△：僅かにあり　－：なし）

第 11 表　３号礫群出土礫一覧


B
B'
B以上
B'以上
B以下
B'以下
B以下
B'以下
B以上
B'以上
B以下
B'以下
B以上
B'以上
B以下
B'以下
B以上
B'以上

出土番号	遺物番号	器種	石材	遺存状況（%）	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	備考
1	TP02-NO1	礫	砂岩	30	8.18	9.28	5.28	495.5	○	△	○	△	2・3と接合
2	TP02-NO2	礫	砂岩	5	1.51	6.03	1.79	47.5	○	－	○	－	1・3と接合
3	TP02-NO3	礫	砂岩	10	7.01	5.72	4.08	156.0	△	－	△	－	1・2と接合

（○：あり　△：僅かにあり　－：なし）

第 12 表　４号礫群出土礫一覧

第２節　縄文時代の遺構・遺物

（1）概　要

縄文時代の遺構は土坑２基のみが検出された。しかし、表土採集遺物の中には縄文時代早期・前期・中期・後期に比定される土器片が多少出土している。既往の調査では、当遺跡に当該期集落が営まれていたことが報告されていることからみても，当調査区周辺に住居があったものと推測される。

（2）土　坑

842 号土坑

遺　構　（第 19 図）

［位　　置］（Ｂ－３）グリッド。

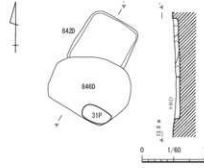
［検出状況］ 846D に切られる。

［構　　造］ **平面形**：方形。**規模**：長軸 0.95m 以上／短軸 0.90m ／深さ 9 ㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**底面**：起伏あり。**長軸方位**：Ｎ－ 62°－ Ｗ。

［覆　　土］ ３層に分層された。経年によるくすんだ暗褐色の土色である。

［遺　　物］ 縄文土器１点が出土した。細片のため図化できなかった。

［時　　期］ 覆土の観察から，縄文時代と考えられる。



842D　上層
1 層　10YR3/2　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。粘性あり。締まりややあり。
2 層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック（中 1 ～ 2 ㎝）少量に含む。
粘性を持ち，やや締まる。
3 層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。粘性あり。締まりややあり。

第 19 図　842 号土坑（１／60）

877 号土坑

遺　構　（第 20 図）

［位　　置］（Ｃ－２）グリッド。

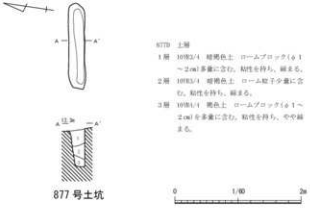
［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形**：長楕円形。**規模**：長軸 1.35m ／短軸 0.25m ／深さ 56㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：N － 70°－ E。

［覆　　土］ ３層に分層された。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 覆土の観察から、縄文時代と考えられる。



第 20 図　877 号土坑（１／60）

第３節　中世以降の遺構・遺物

（１）概　要

中世以降の遺構については、段切状遺構１か所・土坑 40 基（839 ～ 841・843 ～ 876・878 ～ 880 D）・道路状遺構１本・ピット 104 本（１～ 104 P）が検出された。

なお、各遺構の時代設定は、遺物が出土した場合は陶磁器・土器などの年代を中心に詳細年代を明示したが、それ以外は土層観察の結果から時代設定を行っている。

（２）段切状遺構

今回の発掘調査で検出された段切状遺構は４面を数える。最上面は調査区中央部に位置し、南側に一面，北側に２面の平場が展開する。比高差は５㎝から 30㎝ほどであるが、最上面は上面を一部攪乱で削平されており、造成時の標高差は不明である。

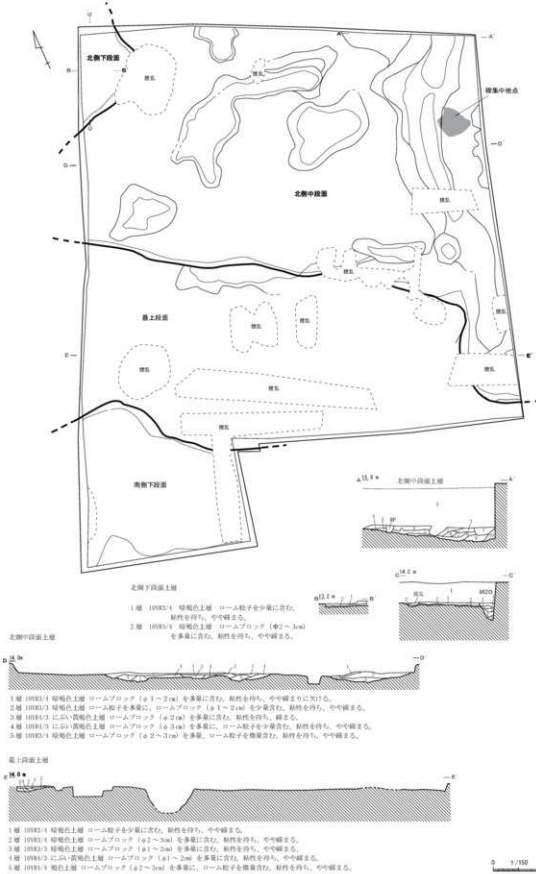
遺　　構　（第 21・22 図）

①最上段面

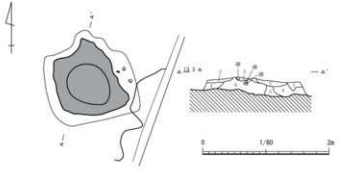
［位　　置］（Ｂ－２、Ｃ－１～４、Ｄ－１～４、Ｅ－１～４）グリッド。

［**検出状況**］ 本遺構上には 59・860・863 ～ 865・867・868・870・871・873 ～ 880 D、75 ～ 96 Ｐが位置している。

［構　　造］ **規模**：長軸 17.0m 以上／短軸 6.9m 以上／標高 13.3m ～ 13.4m。**段組み方位**：全容が分からないため、詳細は不明である。**掘り方**：１㎝から５㎝を測る。掘り方は５層に分層された。１層は、小礫を含まずローム土主体であることから、平坦面をつくることを目的にしたローム土の造成層である。



第21図　段切状遺構全体図（1／150）



北側中段面礫集中地点土層

1層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子・ロームブロック（φ0.5cm～1cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
2層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子・ロームブロック（φ1cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
3層　10YR3/4　暗褐色土層　小礫を多量に含む。粘性を持ち、やや締まりに欠ける。
4層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒子・ロームブロック（φ0.5cm～1cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
5層　10YR3/4　暗褐色土層　小礫を少量に含む。粘性を持ち、やや締まりに欠ける。
6層　10YR3/4　暗褐色土層　小礫を多量に含む。粘性を持ち、締まりに欠ける。

第 22 図　北側中段面礫集中地点（1／60）

②北側中段面（第 22 図）

［位　　置］（A－2～4、B－2～5、C－1～5、D－1～5、E－1～4）グリッド。

［検出状況］ 本遺構上には 839 ～ 852・854 ～ 858・861・866・872 D、 1 ～ 43・45 ～ 74・98 ～ 100 P が位置している。

［構　　造］ **規模**：長軸 15.4m 以上／短軸 9.7m 以上／標高 13.1m ～ 13.3m。**段組み方位**：全容が分からないため方位は不明である。**付属遺構**：本遺構の北東部で溝状の窪みが検出された。土地の境界を表していたものと推測される。**その他**：窪み内から礫集中地点が検出された。出土した礫は拳大のものが多く自然礫である。

［覆　　土］ 付属遺構と推測される溝状の窪みは８層に分層された。２～８層は暗褐色の地山層で、小礫を少量～多量に含む層を基層としている。１層は窪みを埋め平坦面をつくることを目的にしたローム土である可能性が高い。

③北側下段面

［位　　置］（A－2・3、B－2）グリッド。

［検出状況］ 本遺構上には 862 D、44 P が位置している。

［構　　造］ **規模**：長軸 3.9m 以上／短軸 2.7m 以上／標高 12.9m ～ 13.0m。**段組み方位**：全容が分からないため、方位は不明である。**掘り方**： 5㎝から 10㎝を測る。２層に分層された。１層は、小礫を含まずローム土主体であり、平坦面を作ることを目的としたローム土の造成層である可能性が高い。

④南側下段面

［位　　置］（D－1、E－1）グリッド。

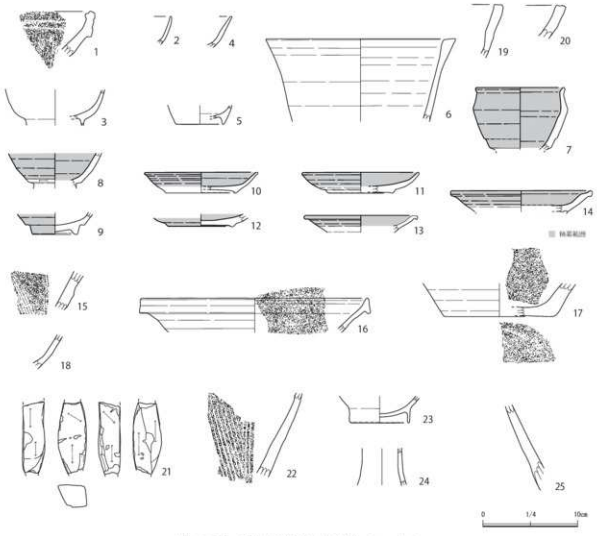
［検出状況］ 本遺構上には 53・869 D、102 ～ 104 P が位置している。

［構　　造］ **規模**：長軸 3.7m 以上／短軸 2.7m 以上／標高 13.2m ～ 13.3m。**掘り方**：確認されなかった。**段組み方位**：全容の様相が分からないため、詳細は不明である。

［覆　　土］ 検出されなかったため不明である。

［遺　　物］ 段切状遺構４面を通じて、54 点の遺物が出土している。内訳は、土師質土器７点、瓦質土器３点、陶器 40 点、磁器３点である。これらの遺物の大半は段切状遺構それぞれの面の直上で検出されたものである。なお、撹乱の中から検出された遺物も含まれているが、これらの撹乱土は客土ではなく、段切状遺構を構成する地山であったと推測できるため、このうち 25 点を図示することとした。

［時　　期］ 出土遺物から、中世（15 世紀後半）に構築され、近世以降も利用されていたと推測される。



第 23 図　段切状遺構出土遺物（1／4）

挿図番号 図版番号	遺構名	種別	器種	法　量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時　期
第 23 図 1 図版 13-2-1	段切状遺構 (最上段面)	陶器	擂鉢	高 [4.7]	体部は外横して立ちあがり、口縁部は直立する／口縁部外面に横走沈線を 2 条／体部上位に横走沈線を 1 条／ヨコナデ整形／内面縦位の櫛描文／色調は暗赤褐色／胎土に白色粒子・石英含む／明石擂鉢	明石産	近　世 (17c ～ 18c)
第 23 図 2 図版 13-2-2	段切状遺構 (最上段面)	磁器	碗	高 [3.8]	体部から口縁部にかけて直立／口縁直下の内外面に 2 条の横走線／表面に細かい気泡／色調は灰白色／胎土に砂粒含む	肥前系	近　世 (18c)
第 23 図 3 図版 13-2-3	段切状遺構 (最上段面)	磁器	碗	高 [3.6]	高台は短く直立し、体部は内湾しつつ立ちあがる／内外面透明釉を施す／上にコバルト釉の沈線文が横走／色調は灰白色／胎土に砂粒含む	肥前系	近　世 (18c)
第 23 図 4 図版 13-2-4	段切状遺構 (最上段面)	磁器	碗	高 [4.0]	体部下位から口縁部にむけて直線的に立ちあがる／内外面に透明釉を施し、横走する沈線文や線描による景色を描く／色調は灰白色／胎土に砂粒含む	瀬戸系	近　世 (幕末 ～明治初)
第 23 図 5 図版 13-2-5	段切状遺構 (最上段面)	磁器	瓶	高 [2.0] 底 (5.0)	底部から体部は直立して立ちあがる／外面に横位と縦位の線／染付／内面無釉／色調は外面灰白色、内面黄白色黒灰色／胎土に砂粒含む	肥前系	近　世 (18c)
第 23 図 6 図版 13-2-6	段切状遺構 (最上段面)	瓦質 土器	鉢	口 (20.0) 高 [8.0]	体部下位から外反し、口縁部に至る／口唇部は幅広く平坦／内外面ともヨコナデ／色調は黒灰色／胎土に赤色粒子・砂粒含む／植木鉢	在地産	近　世 (19c)
第 23 図 7 図版 13-2-7	段切状遺構 (北側中段面)	陶器	碗	口 (9.2) 高 [6.6]	底部と体部下位から外横して立ちあがる／上位に段有／口縁部は直立／端部はやや外反／内外面灰白釉／底部と体部下位は素地のまま／色調は灰白色／胎土に白色粒子・砂粒・石英含む／白天目茶碗	瀬戸系	近　世 (17c 後)
第 23 図 8 図版 13-2-8	段切状遺構 (北側中段面)	陶器	碗	高 [2.1]	体部下位から内湾して立ちあがる／内外面鉄釉／体部下位は素地のまま残される／色調は黒褐色／胎土に砂粒・石英含む／天目茶碗	美濃系	近　世 (18c)
第 23 図 9 図版 13-2-9	段切状遺構 (北側中段面)	陶器	碗	高 [2.3] 底 4.6	削り出し高台／体部下位は平滑に整形され、上方にむけて外横／内面は茶褐釉の上に灰釉流しによる線描／外面は素地のまま／色調は外面：浅黄色、内面：明赤褐色／胎土に白色粒子・砂粒・石英含む	瀬戸系	近　世 (17c 後)

第 13 表　段切状遺構出土陶磁器・土器一覧（1）

挿図番号 図版番号	遺構名	種別	器種	法　量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時　期
第23図10 図版13-2-10	段切状遺構 (北側中段面)	陶器	皿	口〔11.8〕 高 2.2 底〔7.3〕	やや揺ぎ底／底部から体部は直線的に立ちあがる／内外面灰釉／底部外面無釉、目跡あり／色調は灰色／胎土に白色粒子・砂粒含む／志野釉	美濃系	中　世 (16c 後)
第23図11 図版13-2-11	段切状遺構 (北側中段面)	陶器	皿	口〔12.1〕 高 2.2 底〔6.8〕	平底から体部は内湾しつつ立ちあがる／内外面全体に灰釉／貫入顕著、目跡あり／色調は灰色／胎土に砂粒・石英含む／志野釉	瀬戸系	中　世 (16c 前)
第23図12 図版13-2-12	段切状遺構 (北側中段面)	陶器	皿	高〔1.3〕 底〔6.8〕	低く短い高台／体部は外傾して立ちあがる／内外面灰釉／色調は灰色／胎土に白色粒子・砂粒・石英含む／円盤ピン痕／志野釉	瀬戸系	中　世 (16c 前)
第23図13 図版13-2-13	段切状遺構 (北側中段面)	陶器	皿	口〔11.7〕 高〔1.8〕	体部から口縁部は直線的に立ちあがる／端部やや肥厚／内外面灰白釉／色調は灰白色／胎土に白色粒子・砂粒含む／梅花皿	瀬戸系	近　世 (18c 中)
第23図14 図版13-2-14	段切状遺構 (北側中段面)	陶器	皿	口〔14.6〕 高〔2.3〕	低く短い高台／底部から体部から外傾して立ちあがる／上位で段を有し、口縁部にむけて開く／内面に稜を有する／内外面灰釉／色調は黄緑色／胎土に砂粒含む／折縁皿	瀬戸系	中　世 (15c 後)
第23図15 図版13-2-15	段切状遺構 (北側中段面)	陶器	擂鉢	高〔4.0〕	体部片／外面は横走する凹線とヨコナデ／内面ヨコナデ、櫛目を施す／色調は暗赤褐色／胎土に砂粒・石英含む	瀬戸系	中　世 (16c)
第23図16 図版13-2-16	段切状遺構 (北側中段面)	陶器	擂鉢	口〔23.7〕 高〔3.6〕	頸部から外傾して立ちあがる／口縁部は折り返され直立／内外面ヨコナデ／内面に多条の細い櫛目／色調は黒灰色／胎土に大きな石英粒・砂粒含む	瀬戸系	中　世 (16c 後)
第23図17 図版13-2-17	段切状遺構 (北側中段面)	陶器	擂鉢	口〔3.5〕 高〔11.6〕	底部糸切り／平底から体部にかけて外傾して立ちあがる／外面ヨコナデ、櫛目消滅／色調は外面：褐色、内面：灰白色／胎土に石英粒・砂粒含む	瀬戸系	中　世 (16c)
第23図18 図版13-2-18	段切状遺構 (北側中段面)	磁器	碗	高〔3.5〕	体部下位から内湾して立ちあがる／内外面透明釉、内側線と外面に草花を施す／コバルト釉／色調は灰白色／胎土に砂粒含む／染め付け	肥前系	近　世 (18c)
第23図19 図版13-2-19	段切状遺構 (北側中段面)	瓦質 土器	土鍋	高〔6.6〕	口縁部は体部から直立気味に立ちあがる／口唇部平坦／内外面ともヨコナデ／色調は黒灰色／胎土に白色粒子・赤色粒子・砂粒・角閃石含む。	在地産	中　世 (16c 後)
第23図20 図版13-2-20	段切状遺構 (北側中段面)	瓦質 土器	焙烙	高〔3.6〕	口縁部体部から内湾しつつ立ちあがる／口唇部はやや内側ざぐりに平坦な作出／面上に1条の浅い沈線／内外面ともヨコナデ／外面灰化物付着／色調は暗灰色／胎土に赤色粒子・砂粒含む	在地産	近　世 (17c)
第23図22 図版13-2-22	段切状遺構 (南側下段面)	陶器	擂鉢	高〔8.9〕	体部は外傾して立ちあがる。外面はヨコナデを施し、内面に縦位の線刻を描く。／色調は灰色／胎土に白色粒子・砂粒含む	瀬戸系	近　世 (19c)
第23図23 図版13-2-23	段切状遺構 (南側下段面)	磁器	碗	高〔2.9〕 底〔6.0〕	高台は直立して立ちあがり、体部は内湾しつつ立ちあがる。内外面に透明釉を施し、そのと上に横走する沈線文や直線的な線描文をコバルト釉で描く／色調は灰白色／胎土に砂粒含む／広東茶碗	瀬戸系	近　世 (幕末 ～明治初)
第23図24 図版13-2-24	段切状遺構 (南側下段面)	磁器	瓶	高〔3.9〕	瓶の頸部片。多角形の稜を有する。コバルト釉で景色を描く。内面は無釉のまま残される／色調は灰白色／胎土に砂粒含む	肥前系	近　世 (17c 後 ～ 18c 前)
第23図25 図版13-2-25	段切状遺構 (南側下段面)	瓦質 土器	甕	高〔9.4〕	体部片。外面はヨコナデの上に斜位の浅い沈線を2条施し灰釉を施す。内面はユビナデによる整形を加える。／色調は外面：黒灰色、内面：暗灰色／胎土に白色粒子・黒色粒子・砂粒・石英含む	在地産	近　世

第13表　段切状遺構出土陶磁器・土器一覧（2）

遺　物　（第23図、図版13－2、第13表）

1～6は最上段面の遺物である。1は陶器擂鉢で17～18世紀である。2～4は陶磁器碗で、2・3は肥前系で18世紀、4は瀬戸系で幕末～明治初頭のものである。5の磁器瓶は肥前系で、18世紀のものである。6の在地産鉢は19世紀の所産である。

7～21は北側中段面の遺物である。7の陶器は瀬戸系の白天目茶碗で、内外面に灰白釉が施された17世紀後半のものである。8の陶器は美濃系の天目茶碗で、内外面に鉄釉が施された18世紀のものである。9の陶器碗は瀬戸系で、高台を削り出し、内面に灰釉流しによる線描がある。17世紀後半のものである。10の陶器皿は美濃系のもので、志野釉が施される。16世紀後半のものである。11・12の陶器皿は瀬戸系のもので、いずれも志野釉がかかる。16世紀前半のものである。13の陶器皿は瀬戸系のもので、18世紀半ばの輪禿皿である。14の陶器皿は瀬戸系のもので、15世紀後半の折縁皿である。15～17の陶器擂鉢は瀬戸系のもので、15・17は16世紀、16は16世紀後半である。18の磁器碗は肥前系のもので、18世紀の染付碗である。19の瓦質土器土鍋は在地産で、15～16世紀のものである。20の瓦質土器焙烙は在地産で、17世紀のものである。21の砥石は黒灰色の凝灰岩製で、長さ7.5㎝・厚さ3.0㎝・幅2.3㎝を測り、両端が欠損しているが4面とも平滑に整形されている。

22～25は南側下段面の遺物である。22の陶器擂鉢は瀬戸系で、19世紀のものである。23の磁器

碗は瀬戸系で、幕末～明治初頭の広東茶碗である。24 の磁器瓶は肥前系で、17 世紀後半から 18 世紀前半のものである。25 の瓦質土器甕は在地産のもので、近世である。

（3）土　坑

検出された土坑の総数は、縄文時代の土坑２基を除き 40 基で、調査区南西側の一部を除き調査区内満遍なく分布する。863 号土坑は出土遺物や形態から、防空壕として利用されていたものである。また、878 ～ 880 号土坑は中世末期から近世初頭にかけての地下式坑と考えられる。なお、土坑は遺物が少なく、一様に暗褐色系でローム粒子を含む覆土で、中世以降の可能性が高い。

839 号土坑

遺　構　（第 24 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｂ－４）グリッド。

［検出状況］単独。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**規模**：長軸 0.50m ／短軸 0.46m ／深さ 14.5㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：丸味みを帯びる。**長軸方位**：Ｎ－ 63°－ E

［覆　　土］３層に分層された。

［遺　　物］出土していない。

［時　　期］中世以降と考えられる。

840 号土坑

遺　構　（第 24 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｃ－４）グリッド。

［検出状況］841D を切る。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**規模**：長軸 0.70m ／短軸 0.40m ／深さ 25㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：丸味みを帯びる。**長軸方位**：Ｎ－ 15°－ W。

［覆　　土］４層に分層された。

［遺　　物］出土していない。

［時　　期］中世以降と考えられる。

841 号土坑

遺　構　（第 24 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｃ－３・４）グリッド。

［検出状況］840D に切られる。

［構　　造］**平面形**：長楕円形。**規模**：長軸 3.60m ／短軸 0.65m ／深さ 57㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：Ｎ－ 53°－ W。

［覆　　土］６層に分層された。

［遺　　物］出土していない。

［時　　期］中世以降と考えられる。

843 号土坑

遺　構　（第 24 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｂ－３）グリッド。

［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形**：不整円形。**規模**：長軸 0.65m ／短軸 0.60m ／深さ 30㎝。**壁**：緩やかに立ち上がる。**底面**：丸味みを帯びる。**長軸方位**：Ｎ－ 16°－ Ｗ。

［覆　　土］ ５層に分層された。

［遺　　物］ 出土していない。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

844 号土坑

遺　構　（第 24 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。

［検出状況］ 段切状遺構を切る。

［構　　造］ **平面形**：長方形。**規模**：長軸 2.20m ／短軸 1.20m ／深さ 18㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：Ｎ－ 11°－ Ｅ。

［覆　　土］ ６層に分層された。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

［遺　　物］ 土師質土器１点が出土している。細片のため図示できなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

845 号土坑

遺　構　（第 24 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｃ－４・５）グリッド。

［検出状況］ 段切状遺構・855 Ｄを切る。

［構　　造］ **平面形**：長方形。**規模**：長軸 0.80m ／短軸 0.45m ／深さ 13.5㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：Ｎ－ 26°－ Ｅ。

［覆　　土］ ２層に分層された。水平堆積を示していることから、自然堆積と考えられる。

［遺　　物］ 土師質土器１点が出土している。細片のため図示できなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

846 号土坑

遺　構　（第 24 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｂ・Ｃ－３）グリッド。

［検出状況］ 842D を切り、31P に切られる。

［構　　造］ **平面形**：隅丸方形。**規模**：長軸 1.30m ／短軸〈1.00〉m ／深さ７㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：Ｎ－ 60°－ Ｗ。

［覆　　土］ ５層に分層された。

［遺　　物］ 出土していない。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

847 号土坑

遺　　構 （第 24 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｃ－２・３）グリッド。

［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形：**楕円形。**規模：**長軸 1.40m ／短軸 0.60m ／深さ 62㎝。**壁：**外傾して立ち上がる。**底面：**起伏あり。**長軸方位：**Ｎ－ 45°－ Ｅ。

［覆　　土］ ６層に分層された。

［遺　　物］ 陶器が１点が覆土下層から出土している。

［時　　期］ 出土している遺物から中世（16 世紀）と考えられる。

遺　　物 （第 32 図１、図版 14 －１－１、第 15 表）

［陶　　器］（第 32 図１、図版 14 －１－１、第 15 表）

１の擂鉢は、16 世紀の瀬戸系陶器と考えられる。

848 号土坑

遺　　構 （第 25 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｂ－２・３）グリッド。

［検出状況］ 83P を切る。

［構　　造］ **平面形：**楕円形。**規模：**長軸 1.35m ／短軸 0.85m ／深さ 103m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**底面：**ほぼ平坦である。**長軸方位：**Ｎ－ 75°－ Ｗ。

［覆　　土］ 31 層に分層された。

［遺　　物］ 出土していない。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

849 号土坑

遺　　構 （第 25 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。

［検出状況］ 66P に切られる。

［構　　造］ **平面形：**楕円形。**規模：**長軸〈1.25〉m ／短軸 0.50m ／深さ 27㎝。**壁：**外傾して立ち上がる。**底面：**丸味みを帯びる。**長軸方位：**Ｎ－ 80°－ Ｗ。

［覆　　土］ ２層に分層された。

［遺　　物］ 出土していない。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

850 号土坑

遺　　構 （第 25 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｂ－２）グリッド。

［検出状況］　852D を切る。

［構　　造］　**平面形**：楕円形。**規模**：長軸 1.35m ／短軸 1.15m ／深さ 16㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：Ｎ－ 26°－ Ｗ。

［覆　　土］　２層に分層された。

［遺　　物］　出土しなかった。

［時　　期］　中世以降と考えられる。

851 号土坑

遺　　構　（第 25 図、第 14 表）

［位　　置］　（Ｂ－３・４、Ｃ－３・４）グリッド。

［検出状況］　単独。

［構　　造］　**平面形**：長楕円形。**規模**：長軸 2.70m ／短軸 0.65m ／深さ 29㎝。**壁**：緩やかに立ち上がる。**底面**：起伏あり。**長軸方位**：Ｎ－ 28°－ Ｅ。

［覆　　土］　６層に分層された。

［遺　　物］　出土しなかった。

［時　　期］　中世以降と考えられる。

852 号土坑

遺　　構　（第 25 図、第 14 表）

［位　　置］　（Ｂ－２）グリッド。

［検出状況］　850D に切られる。

［構　　造］　**平面形**：不整楕円形。**規模**：長軸 1.40m ／短軸 1.05m ／深さ 6.3㎝。**壁**：緩やかに立ち上がる。**底面**：起伏あり。**長軸方位**：Ｎ－ 71°－ Ｗ。

［覆　　土］　６層に分層された。

［遺　　物］　出土しなかった。

［時　　期］　中世以降と考えられる。

853 号土坑

遺　　構　（第 26 図、第 14 表）

［位　　置］　（Ｄ－１）グリッド。

［検出状況］　単独。

［構　　造］　**平面形**：不整楕円形。**規模**：長軸 0.55m ／短軸 0.45m ／深さ 12.5㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：起伏あり。**長軸方位**：Ｎ－ 70°－ Ｅ。

［覆　　土］　３層に分層された。

［遺　　物］　出土しなかった。

［時　　期］　中世以降と考えられる。

854 号土坑

遺　構　（第 26 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｂ－３）グリッド。

［検出状況］　単独。

［構　　造］　**平面形**：不整円形。**規模**：長軸 0.45m ／短軸 0.43m ／深さ 28㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：丸味みを帯びる。**長軸方位**：Ｎ－ 24°－ Ｗ。

［覆　　土］　３層に分層された。

［遺　　物］　出土しなかった。

［時　　期］　中世以降と考えられる。

855 号土坑

遺　構　（第 26 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｃ－５）グリッド。

［検出状況］　845 Ｄに切られる。

［構　　造］　**平面形**：不整楕方形。**規模**：長軸 0.50m ／短軸 0.45m ／深さ 23㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：丸味みを帯びる。**長軸方位**：Ｎ－ 46°－ Ｗ。

［覆　　土］　４層に分層された。

［遺　　物］　出土しなかった。

［時　　期］　中世以降と考えられる。

856 号土坑

遺　構　（第 26 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｃ－４）グリッド。

［検出状況］　単独。

［構　　造］　**平面形**：円形。**規模**：長軸 0.6m ／短軸 0.50m ／深さ 25㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：Ｎ－ 63°－ Ｗ。

［覆　　土］　３層に分層された。

［遺　　物］　出土しなかった。

［時　　期］　中世以降と考えられる。

857 号土坑

遺　構　（第 26 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｂ－５）グリッド。

［検出状況］　４Ｐを切る。

［構　　造］　**平面形**：楕円形。**規模**：長軸 0.55m ／短軸 0.45m ／深さ 37.5㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：丸味みを帯びる。**長軸方位**：Ｎ－ 65°－ Ｅ。

［覆　　土］　７層に分層された。

［遺　　物］　出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

858 号土坑

遺　　構 （第 26 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｂ－５）グリッド。

［検出状況］ 単独。一部、東側の調査区に延びている。

［構　　造］ **平面形**：隅丸方形。**規模**：長軸 0.80m ／短軸 0.40m ／深さ 14㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：調査区外に延びているため不明である。

［覆　　土］ ３層に分層された。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

859 号土坑

遺　　構 （第 26 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｅ－４）グリッド。

［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形**：不整長方形。**規模**：長軸 1.00m ／短軸 0.70m ／深さ 38㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：起伏あり。**長軸方位**：Ｎ－ 47°－ Ｗ。

［覆　　土］ 暗褐色土が基調の単一層である。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

860 号土坑

遺　　構 （第 26 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｄ・Ｅ－４）グリッド。

［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形**：楕円形。**規模**：長軸 0.60m ／短軸 0.45m ／深さ 24㎝。**壁**：緩やかに立ち上がる。**底面**：起伏あり。**長軸方位**：Ｎ－ 40°－ Ｗ。

［覆　　土］ 暗褐色土が基調の単一層である。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

861 号土坑

遺　　構 （第 26 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｂ－４）グリッド。

［検出状況］ 12 Ｐに切られる。

［構　　造］ **平面形**：長方形。**規模**：長軸 0.45m ／短軸 0.30m ／深さ 11㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：起伏あり。**長軸方位**：Ｎ－ 92°－ Ｅ。

［覆　　土］ 暗褐色土が基調の単一層である。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

862 号土坑

遺　　構 （第 27 図、第 14 表）

［位　　置］（Ａ－２）グリッド。

［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形**：不明。**規模**：長軸 0.95m ／短軸 0.60m ／深さ 67㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：丸味みを帯びる。**長軸方位**：調査区外に延びているため不明。

［覆　　土］ ５層に分層された。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

863 号土坑

遺　　構 （第 27 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｄ・Ｅ－４）グリッド。

［検出状況］ 段切状遺構、864・871・875D を切る。

［構　　造］ 防空壕と思われる。**平面形**：不整形。**規模**：長軸 2.9m ／短軸 1.25m ／深さ 83㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：Ｎ－ 34°－ Ｅ。

［覆　　土］ ８層に分層された。ロームブロック主体の人為堆積である。

［遺　　物］ 磁器１点、ガラス片、植木鉢が出土している。細片のため図示できなかった。

［時　　期］ 近・現代と考えられる。

864 号土坑

遺　　構 （第 27 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｄ－４）グリッド。

［検出状況］ 871D を切り、863D に切られる。

［構　　造］ **平面形**：不整長方形。**規模**：長軸 1.65m ／短軸 0.45m ／深さ 29.5㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：Ｎ－ 42°－ Ｅ。

［覆　　土］ ４層に分層された。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

865 号土坑

遺　　構 （第 27 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｄ－３）グリッド。

［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形**：楕円形。**規模**：長軸 1.10m ／短軸 0.75m ／深さ 41.5㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：N － 42°－ E。

［覆　　土］ 暗褐色土が基調の単一層である。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

866 号土坑

遺　　構　（第 27 図、第 14 表）

［位　　置］（C ・ D － 5 ）グリッド。

［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形**：楕円形。**規模**：長軸 0.70m ／短軸 0.45m ／深さ 27㎝。**壁**：緩やかに立ち上がる。**底面**：丸味みを帯びる。**長軸方位**：N － 18°－ W。

［覆　　土］ 4 層に分層された。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

867 号土坑

遺　　構　（第 28 図、第 14 表）

［位　　置］（D － 3 ・ 4 ）グリッド。

［検出状況］ 段切状遺構、874・876・878D を切る。

［構　　造］ **平面形**：長楕円形。**規模**：長軸 1.75m ／短軸 0.65m ／深さ 62㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：N － 29°－ E。

［覆　　土］ 4 層に分層された。ロームブロック主体の人為堆積である。

［遺　　物］ 陶器壺 1 点が出土している。

［時　　期］ 近世（18 世紀）。

遺　　構　（第 32 図、図版 14 － 1 － 1 、第 15 表）

［陶　　器］（第 32 図、図版 14 － 1 － 1 、第 15 表）

1 の壺は美濃系のもので、内外面灰釉で外面細かい貫入が見られる。18 世紀のものと考えられる。

868 号土坑

遺　　構　（第 28 図、第 14 表）

［位　　置］（D － 4 ）グリッド。

［検出状況］ 878 D を切る。

［構　　造］ **平面形**：不整円形。**規模**：長軸 1.90m ／短軸 0.80m ／深さ 23㎝。**壁**：緩やかに立ち上がる。**底面**：一部、起伏をもつ。**長軸方位**：N － 27°－ E。

［覆　　土］ 5 層に分層された。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

869 号土坑

遺　構　（第 28 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｄ－１）グリッド。

［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形**：楕円形。**規模**：長軸 0.95m ／短軸 0.55m 以上／深さ 28㎝。**壁**：緩やかに立ち上がる。**底面**：丸味みを帯びる。**長軸方位**：Ｎ－ 85°－ Ｅ。

［覆　　土］ ３層に分層された。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

870 号土坑

遺　構　（第 28 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｄ－３・４）グリッド。

［検出状況］ 段切状遺構、874 Ｄを切る。

［構　　造］ **平面形**：円形。**規模**：長軸 0.85m ／短軸 0.80m ／深さ 15㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：Ｎ－Ｓ。

［覆　　土］ ２層に分層された。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

871 号土坑

遺　構　（第 28 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｄ－３・４、Ｅ－４）グリッド。

［検出状況］ 863・864D に切られる。

［構　　造］ **平面形**：長方形。**規模**：長軸 1.10m ／短軸 0.55m ／深さ 20㎝。**壁**：緩やかに立ち上がる。**底面**：やや起伏を持つ。**長軸方位**：Ｎ－ 52°－ Ｗ。

［覆　　土］ 暗褐色土が基調の単一層である。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

872 号土坑

遺　構　（第 28 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｄ－４）グリッド。

［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形**：長方形。**規模**：長軸 1.55m ／短軸 0.80m ／深さ 32㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：Ｎ－ 23°－ Ｅ。

［覆　　土］ ４層に分層された。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

873 号土坑

遺　　構（第 28 図、第 14 表）

［位　　置］（C・D－３）グリッド。

［検出状況］ 95・96・119P，876D に切られる。

［構　　造］ **平面形**：長方形。**規模**：長軸 4.35m 以上／短軸 0.65m ／深さ 22㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：N－72°－W。

［覆　　土］ ３層に分層された。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

874 号土坑

遺　　構（第 28 図、第 14 表）

［位　　置］（D－４）グリッド。

［検出状況］ 878D を切り、867・870D に切られる。

［構　　造］ **平面形**：楕円形。**規模**：長軸 0.80m ／短軸 0.65m 以上／深さ 36㎝。**壁**：緩やかに立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：N－30°－E。

［覆　　土］ ４層に分層された。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

875 号土坑

遺　　構（第 28 図、第 14 表）

［位　　置］（D－４）グリッド。

［検出状況］ 863D・100 P に切られる。

［構　　造］ **平面形**：楕円形。**規模**：長軸 1.05m ／短軸 0.75m 以上／深さ 29㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：N－15°－E。

［覆　　土］ ４層に分層された。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

876 号土坑

遺　　構（第 29 図、第 14 表）

［位　　置］（D－３）グリッド。

［検出状況］ 873D を切り、867D・119 に切られる。

［構　　造］ **平面形**：長方形。**規模**：長軸 1.40m ／短軸 0.95m ／深さ 38㎝。**壁**：外傾して立ち上がる。**底面**：ほぼ平坦である。**長軸方位**：N－15°－E。

［覆　　土］ 暗褐色土が基調の単一層である。

［遺　　物］ 出土しなかった。

［時　　期］ 中世以降と考えられる。

878 号土坑

遺　　構 （第 29 図、第 14 表）

［位　　置］ （D－３・４）グリッド。

［検出状況］ 段切状遺構に位置する。867・868・870・874D、113・115・116P に切られる。

［構　　造］ 地下式坑の形態をもつ。

［入口竪坑部］ **平面形**：円形。**規模**：長軸 2.31m ／短軸 1.83m ／深さ 288㎝。坑底は平坦で、主体部へは 10㎝の段差をもつ。**長軸方位**：N－80°－E。

［主　体　部］ **平面形**：方形。**規模**：長軸約 2.2m ／短軸約 1.9m ／深さ 278㎝。**主室天井部**：概ね残存していた。**長軸方位**：N－20°－E。

［覆　　土］ 14 層に分層された。１層から４層は埋没後の窪みに堆積した層である。

［遺　　物］ 陶器７点、磁器２点、土師質土器１点、板碑１点、礫２点が覆土中から出土している。その内、陶器３点、板碑１点を図示した。

［時　　期］ 中世（16 世紀）と考えられる。

遺　　物 （第 32 図、図版 14－１－１～４、第 15 表）

［陶　　器］（第 32 図、図版 14－１－１～３、第 15 表）

１の丸碗は、高台は短く直立し、内湾して立ちあがる。内外面に灰釉を施す。２の擂鉢は、外面に横位の凹縁を３条以上めぐらし、内面に 10 条程の櫛目を施す。16 世紀の瀬戸系と思われる。３の供物台は、脚部が平坦な台部から直立し、底部に至る。碗部から脚部上位の内面に透明釉を施し、貫入をつくる。２・３はいずれも近世の 18 世紀のものである。

［板　　碑］（第 32 図、図版 14－１－４）

４は板碑の破片である。現在長 16.1㎝・幅 9.7㎝・厚さ 1.8㎝・重量 349.0 ｇ。表面に銘が刻まれているが、不明瞭である。

879 号土坑

遺　　構 （第 30 図、第 14 表）

［位　　置］ （D－２・３）グリッド。

［検出状況］ 段切状遺構に位置する。

［構　　造］ 地下式坑の形態をもつ。

［入口竪坑部］ **平面形**：円形。**規模**：長軸約 1.3m ／短軸約 0.90m ／深さ 108㎝。坑底は平坦で、主体部へは階段状になっており、27㎝の段差をもつ。**長軸方位**：N－65°－W。

［主　体　部］ **平面形**：方形。**規模**：長軸約 3.1m ／短軸約 2.0m ／深さ 145㎝。**主室天井部**：崩落していた。**長軸方位**：N－44°－W。

［覆　　土］ 44 層に分層された。１・２層は天井崩落後に埋没した自然堆積層である。19 層以下は主に天井部崩落土であるが、43・44 層は壁部崩落土である可能性が高い。

［遺　　物］ 陶器 17 点、磁器９点、瓦質土器８点、不明土製品１点、礫３点が出土している。その内、陶器１点、磁器１点、瓦質土器１点、土製品１点を図示した。

［時　　期］ 中世（16 世紀）と考えられる。

遺　　物（第 32 図、図版 14 －１－１～４、第 15 表）

［陶 磁 器］（第 32 図、図版 14 －１－１・２、第 15 表）

１は陶器黄瀬戸の猪口である。口縁部は体部から直立し、口唇部は平坦に作出される。17 世紀のものである。２の磁器碗は、肥前系の染付碗で、外面に二重圏線と風景を画く。近世 18 世紀と考えられる。

［土　　器］（第 32 図、図版 14 －１－３、第 15 表）

３は瓦質土器の土鍋で、内外面ともヨコナデ整形が施されている。また、外面には煤の付着が認められる。在地産のもので、16 世紀と考えられる。

［土 製 品］（第 32 図、図版 14 －１－４）

４の不明土製品は、長さ 1.7㎝・幅 1.7㎝・厚さ 1.7㎝を測り、外面にナデ調整を施す。下部に貼り付けの痕が残る。詳細は不明である。

880 号土坑

遺　　構（第 31 図、第 14 表）

［位　　置］（Ｄ－１・２、Ｅ－１・２）グリッド。

［検出状況］ 段切状遺構に位置する。１号道路状遺構を切る。

［構　　造］ 地下式坑の形態をもつ。

［入口竪坑部］ **平面形：**円形。**規模：**長軸約 1.3m ／短軸約 0.7m ／深さ 243㎝。坑底は平坦で、主体部へはスロープ状になり、30㎝の段差をもつ。**長軸方位：**Ｎ－ 80°－Ｅ。

［主　体　部］ **平面形：**方形。**規模：**長軸約 4.0m ／短軸約 3.6m ／深さ 268㎝。**天井部：**一部残存していた。**長軸方位：**Ｎ－ 24°－Ｅ。

［覆　　土］ 大半が後世の攪乱のため覆土は分層できなかった。

［遺　　物］ 出土しなかった。

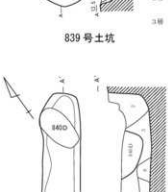
［時　　期］ 中世以降と考えられる。

839 号土坑

839D　土層
1 層　10YR3/4　暗褐色土　ロームブロック（中２～３cm）多量に含む。粘性あり、締まりややなし。
2 層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。粘性あり、締まりややあり。
3 層　10YR4/4　褐色土　ロームブロック（中２～３cm）多量に含む。粘性あり、締まりややなし。

840 号土坑

840D　土層
1 層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ0.5～1 cm）・ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
2 層　10YR3/3　暗褐色土層　ロームブロック（φ0.5～1 cm）・ローム粒子を多量に含む粘性を持ち、やや締まる。
3 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒子を少量に含む。粘性を持ち、締まる。
4 層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。



841 号土坑

841D　土層
1 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ2～3cm）を多量に、ローム粒子を微量含む。粘性を持ち、やや締まる。
2 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ1～2cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、締まる。
3 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量、ロームブロック（φ0.5cm）を微量含む。粘性を持ち、やや締まる。
4 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ0.5～1cm）を多量に、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、締まる。
5 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ2～3cm）を多量に、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
6 層　10YR3/4　褐色土層　ロームブロック（φ0.5～1cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

843 号土坑

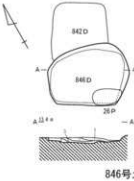
843D　土層
1 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
2 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒子を多量に、ロームブロック（φ1～2cm）を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
3 層　10YR4/4　褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
4 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
5 層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ1～2cm）・ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

844 号土坑

844D　土層
1 層　10YR2/4　暗褐色土　ロームブロック（中1～2cm）多量に含む。粘性を持ち、締まる。
2 層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
3 層　10YR3/3　暗褐色土　ロームブロック（中1～2cm）少量に含む。ローム粒子少量に含む。粘性を持ち、締まる。
4 層　10YR3/3　暗褐色土　黒褐色土粒子・ローム粒子少量に含む。ロームブロック（中1cm）少量に含む。粘性を持ち、締まる。
5 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒子多量に含む。ロームブロック（中1～2cm）少量に含む。粘性を持ち、締まる。
6 層　10YR4/4　褐色土　ロームブロック（中1～3cm）少量に含む。粘性を持ち、締まる。

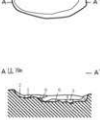
845 号土坑

845D　土層
1 層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。粘性を持ち、締まる。
2 層　10YR3/3　暗褐色土　ロームブロック（中1～3cm）少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。



846号土坑

846D　土層
1 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ロームブロック（φ1～2cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
2 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
3 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ1～3cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
4 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ロームブロック（φ1～3cm）を多量に、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

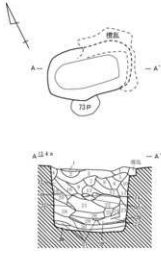


847号土坑

847D　土層
1 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
2 層　10YR2/3　暗褐色土層　ロームブロック（φ0.5～1 cm）・ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
3 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ロームブロック（φ0.5～1 cm）・ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
4 層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
5 層　10YR4/1　褐色土　ロームブロック（φ1～2cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
6 層　10YR4/4　褐色土　ロームブロック（φ1～2cm）を少量、ローム粒子を微量含む。粘性を持ち、やや締まる。

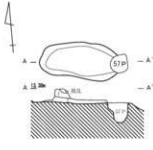
0　1/60　2m

第 24 図　土坑１（1／60）



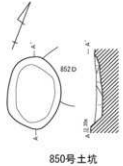
848号土坑

848D　土層
1層　10YR3/4　暗褐色土　ロームブロック（中２～３cm）多量に含む。粘性を持ち、締まる。
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
3層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。ロームブロック（中１～２cm）少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
4層　10YR3/4　暗褐色土　ローム上粒子少量に含む。粘性を持ち、やや締まるに欠ける。
5層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子微量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
6層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子微量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
7層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。ロームブロック（中１cm）微量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
8層　10YR4/4　黒色土　ローム上多量に含む。暗褐色土少量に含む。粘性を持ち、締まる。
9層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。ロームブロック（中0.5cm）微量に含む。粘性を持ち、やや締まりに欠ける。
10層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒子少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
11層　10YR4/4　黒色土　ローム粒子多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
12層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒子少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
13層　10YR4/4　黒色土　ローム粒子多量に含む。ロームブロック（中１～３cm）多量に含む。粘性を持ち、やや締まりに欠ける。
14層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒子多量に含む。粘性を持ち、締まる。
15層　10YR3/4　暗褐色土　黒褐色土多量に含む。ローム粒子多量にあり、粘性を持ち、やや締まりに欠ける。
16層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒子多量に含む。黒褐色土少量含む。粘性を持ち、締まる。
17層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。ロームブロック（中0.5cm）多量に含む。粘性を持ち、やや締まりに欠ける。
18層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
19層　10YR4/6　黒色土　ローム上多量に含む。ロームブロック（中0.5～3cm）多量に含む。粘性を持ち、やや締まりに欠ける。
20層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒子少量に含む。ロームブロック（中0.5cm）少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
21層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。ロームブロック（中0.5cm）少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
22層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
23層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子多量に含む。ロームブロック（中１～２cm）少量に含む。粘性を持ち、やや締まりに欠ける。
24層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
25層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子多量に含む。ロームブロック（中１～２cm）少量に含む。粘性を持ち、やや締まりに欠ける。
26層　10YR4/6　黒色土　ロームブロック（中１～２cm）多量に含む。ローム上・暗褐色土少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
27層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒子微量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
28層　10YR4/6　黒色土　ロームブロック（中１～３cm）多量に含む。ローム上・暗褐色土少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
29層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒子少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
30層　10YR6/8　明黄褐色土　ローム上多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
31層　10YR5/8　黄褐色　ローム土主体。黒褐色土少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。



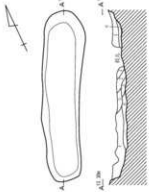
849号土坑

849D　土層
1層　10YR3/4　暗褐色土　ロームブロック（中２～３cm）少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
2層　10YR3/4　暗褐色土　ロームブロック（中２～３cm）少量に含む。焼土粒子微量に含む。粘性を持ち、締まる。



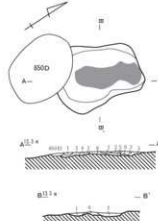
850号土坑

850D　土層
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
2層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。ロームブロック（中１～２cm）少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。



851号土坑

851D　土層
1層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
2層　10YR3/3　暗褐色土層　ロームブロック（φ0.5cm）ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
3層　10YR4/4　黒色土層　ロームブロック（φ0.5～2cm）を多量に、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
4層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子・ロームブロック（φ0.5～1cm）・黒色土を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
5層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒子多量に含む。ローム ブロック（中１～２cm）少量に含む。粘性を持ち、締まる。
6層　10YR4/4　黒色土　ロームブロック（中１～３cm）少量に含む。粘性を持ち、締まる。

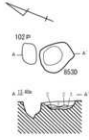


852号土坑

852D　土層
1層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性をもち、締まる。
2層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ0.5cm）を少量、焼土粒子を微量含む。粘性を持ち、締まる。
3層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性を持ち、締まる。
4層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
5層　10YR3/3　暗褐色土層　焼土粒子を少量、焼土ブロック（φ1.5cm）微量含む。粘性を持ち、締まる。
6層　2.5YR3/4　暗赤褐色土層　焼土粒子を多量に、焼土ブロック（φ1cm）を少量、暗褐色土を微量含む。粘性はやや欠け、やや締まる。

0　1/60　2m

第25図　土坑2（1／60）

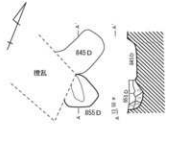


853D　上層
1 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、締まる。
2 層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム・ブロック（φ0.5cm）を多量に、ローム粒子を微量含む。粘性を持ち、締まる。
3 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ローム・ブロック（φ0.5cm）を少量含む。粘性を持ち、締まる。

853 号土坑

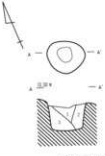
854D　上層
1 層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
2 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム・ブロック（中1～2cm）少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
3 層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子・ローム・ブロック（中1～2cm）少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。

854 号土坑



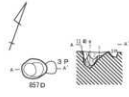
855D　上層
1 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
2 層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム・ブロック（φ0.5～1cm）・ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
3 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ローム・ブロック（φ0.5～1cm）・ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
4 層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

855 号土坑



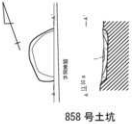
856D　上層
1 層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を少量、ローム・ブロック（φ1～2cm）を微量含む。粘性を持ち、締まる。
2 層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子・ローム・ブロック（φ0.5～2cm）を少量含む。粘性を持ち、締まる。
3 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ローム・ブロック（φ1～2cm）を多量に、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、締まる。

856 号土坑



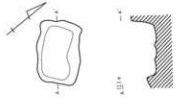
857D　上層
1 層　10YR3/4　暗褐色土　ローム・ブロック（中1～2cm）多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
2 層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒子多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
3 層　10YR3/3　暗褐色土　ローム・ブロック（中2～3cm）多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
4 層　10YR3/4　暗褐色土　ローム・ブロック（中1～2cm）多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
5 層　10YR5/3　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。粘性を持ち、やや締まりに欠ける。
6 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒子多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
7 層　10YR3/3　暗褐色土　ローム・ブロック（中1～2cm）微量に含む。粘性を持ち、やや締まる。

857 号土坑

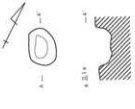


858D　上層
1 層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。粘性を持ち、締まる。
2 層　10YR3/4　暗褐色土　ローム・ブロック（中1～2cm）多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
3 層　10YR2/4　暗褐色土　ローム・ブロック（中1～2cm）少量に含む。粘性を持ち、やや締まる。

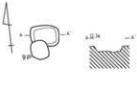
858 号土坑



859 号土坑



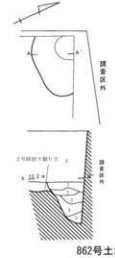
860 号土坑



861 号土坑

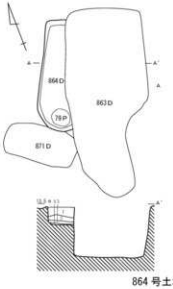
0　1/60　2m

第 26 図　土坑３（１／60）



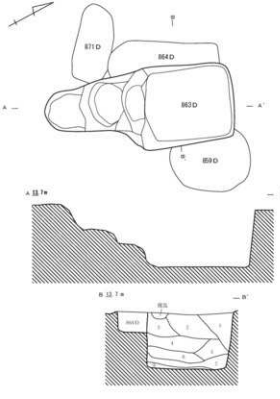
862号土坑

862D　上層
1層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を微量含む。粘性を持ち、締まる。
2層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を少量、ロームブロック（φ１～２cm）を微量含む。粘性を持ち、締まる。
3層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量、ロームブロック（φ0.5cm）を微量含む。粘性を持ち、やや締まる。
4層　10YR1/3　にぶい黄褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）を多量に、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、締まる。
5層　10YR3/4　暗色土層　ロームブロック（φ0.5～１cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。



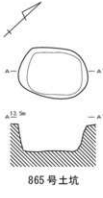
864号土坑

864D　上層
1層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ0.5～１cm）・ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
2層　10YR3/3　暗褐色土層　ロームブロック（φ0.5cm）・ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
3層　10YR1/3　にぶい黄褐色土層　ロームブロック（φ0.5cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
4層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。



863号土坑

863D　上層
1層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を多量に、ロームブロック（φ１～２cm）を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
2層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）・ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
3層　10YR3/3　暗褐色土層　ロームブロック（φ0.5cm）・ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
4層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）・ローム粒子を多量に、黄色土ブロック（φ0.5cm）を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
5層　10YR3/3　暗褐色土層　ロームブロック（φ0.5cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。
6層　10YR4/4　黄色土層　ロームブロック（φ１～２cm）・ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
7層　10YR4/4　黄色土層　ロームブロック（φ２～５cm）・ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。
8層　10YR4/4　黄色土層　ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。



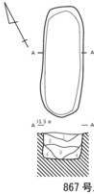
865号土坑

866号土坑

866D　上層
1層　10YR3/3　暗褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）を少量含む。粘性を持ち、締まる。
2層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を少量、ロームブロック（φ１～２cm）を微量含む。粘性を持ち、締まる。
3層　10YR3/3　暗褐色土層　，ローム粒子・ロームブロック（φ0.5～２cm）を少量含む。粘性を持ち、締まる。
4層　10YR1/3　にぶい黄褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）を多量に、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、締まる。

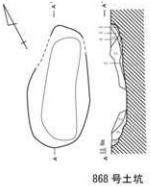
0　1/60　2m

第27図　土坑４（１／60）



867D　上層
1層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
2層　10YR3/3　暗褐色土層　ロームブロック（φ５～１cm）・ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
3層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
4層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）を少量、ローム粒子・暗褐色土を微量含む。粘性を持ち、やや緩まる。

867 号土坑

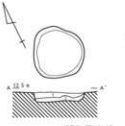


868D　上層
1層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
2層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ロームブロック（φ０.５cm）を少量含む。粘性を持ち、緩まる。
4層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子・ロームブロック（φ０.５～１cm）・暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
5層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）を少量含む。粘性を持ち、緩まる。

868 号土坑

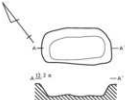
869D　上層
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。粘性あり、緩まりあり。
2層　10YR3/3　暗褐色土　ロームブロック（中１～２cm）少量に含む。粘性あり、緩まりあり。
3層　10YR3/4　暗褐色土　ロームブロック（中１～２cm）を少量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。

869 号土坑

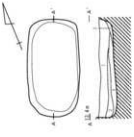


870D　上層
1層　10YR3/4　暗褐色土　ロームブロック（中１～２cm）多量に含む。粘性を持ち、緩まる。
2層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒子少量に含む。粘性を持ち、緩まる。

870 号土坑

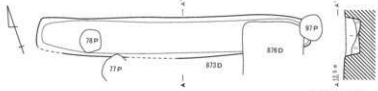


871 号土坑



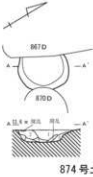
872D　上層
1層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）・ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
2層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
3層　10YR3/2　黒褐色土層　ロームブロック（φ０.５cm）を少量、ローム粒子を微量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
4層　10YR3/2　黒褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、緩まる。

872 号土坑



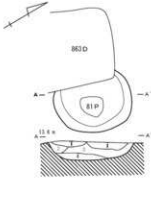
873D　上層
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒子少量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
2層　10YR3/2　黒褐色土　ロームブロック（中１～２cm）少量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
3層　10YR3/4　暗褐色土　ロームブロック（中１～２cm）少量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。

873 号土坑



874D　上層
1層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
2層　10YR3/3　暗褐色土層　ロームブロック（φ０.５cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
3層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
4層　10YR3/2　黒褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。

874 号土坑

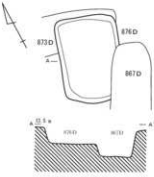


875D　上層
1層　10YR3/2　黒褐色土層　ローム粒子を微量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
2層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
3層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を微量含む。粘性を持ち、緩まる。
4層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。

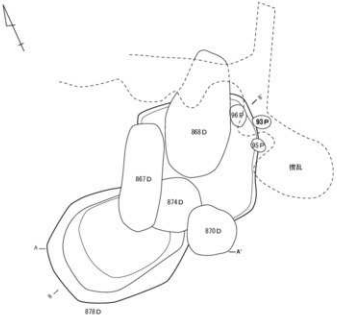
875 号土坑

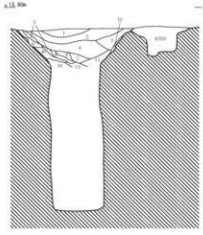
0　1/60　2m

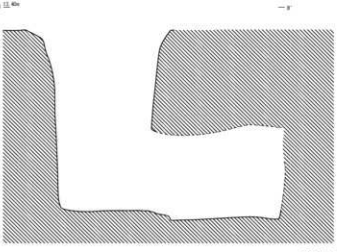
第 28 図　土坑５（1／60）



876 号土坑







878 号土坑

870D　上層

1 層　10YR2/3　暗褐色土層　ローム粒子を微量含む。粘性を持ち、やや緩まる。

2 層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。

3 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量、ロームブロック（φ 0.5 cm）を微量含む。粘性を持ち、やや緩まる。

4 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子・ロームブロック（φ 0.5 cm）を少量含む。粘性を持ち、緩まる。

5 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ 2 ～ 3 cm）を多量に、暗褐色土を少量、ローム粒子を微量含む。粘性を持ち、やや緩まる。

6 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ 2 ～ 3 cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。

7 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ 0.5 ～ 1 cm）を多量に、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、緩まる。

8 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量、ロームブロック（φ 0.5 cm）を微量含む。粘性を持ち、やや緩まる。

9 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子・ロームブロック（φ 0.5 cm）を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。

10 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ 2 ～ 3 cm）を多量に、ローム粒子を微量含む。粘性を持ち、やや緩まる。

11 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。

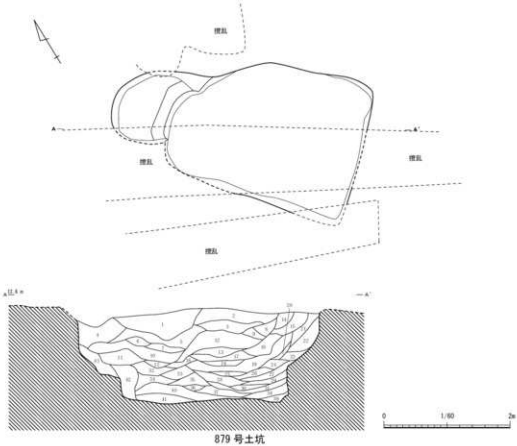
12 層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ 0.5 cm）を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。

13 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ 1 ～ 2 cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、緩まる。

14 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ 2 ～ 3 cm）を多量に、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。

0　1/60　2m

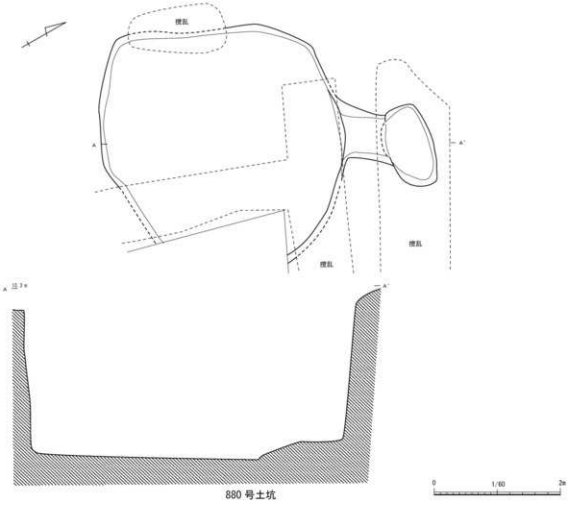
第 29 図　土坑６（１／60）



879 号土坑

879D　土層
1 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
2 層　10YR3/3　暗褐色土層　ロームブロック(φ１～２cm)を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
3 層　10YR4/2　にぶい黄褐色土層　ローム粒子を多量に含み、ロームブロック（φ１～２cm）少量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
4 層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
5 層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
6 層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）を少量含む。粘性を持ち、やや緩まりに欠ける。
7 層　10YR3/3　暗褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
8 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック(φ１～３cm)を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
9 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ１～３cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まりに欠ける。
10 層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ１～３cm）を少量含む。粘性を持ち、やや緩まりに欠ける。
11 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒子を多量に含み、ロームブロック（φ１～２cm)を少量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
12 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒子を多量に含み、ロームブロック（φ１～２cm）を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
13 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ１～３cm）多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
14 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒子・ロームブロック（φ１～２cm）を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
15 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ１～３cm）を多量に、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
16 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ１～３cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
17 層　10YR4/6　褐色土層　ロームブロック(φ２～４cm)を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
18 層　10YR4/6　褐色土層　ロームブロック（φ２～４cm）を多量に、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
19 層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
20 層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）を多量に含む。ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
21 層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック(φ２～３cm)を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
22 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
23 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、緩まる。
24 層　10YR3/3　暗褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
25 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
26 層　10YR3/3　暗褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
27 層　10YR3/3　暗褐色土層　ロームブロック(φ１～３cm)を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
28 層　10YR4/4　褐色土層　ローム土・ロームブロック（φ１～４cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
29 層　10YR4/6　褐色土層　ローム土を多量に含み、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
30 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
31 層　10YR4/6　褐色土層　ローム土を多量に含み、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、やや緩まる。
32 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒子を多量に含む。ロームブロック（φ２～３cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
33 層　10YR4/4　褐色土層　ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、緩まる。
34 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、緩まる。
35 層　10YR4/6　褐色土層　ローム土・ロームブロック（φ１～４cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
36 層　10YR4/6　褐色土層　ロームブロック(φ２～３cm)を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
37 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック(φ１～２cm)を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
38 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
39 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　ロームブロック（φ１～２cm）・ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
40 層　10YR4/3　にぶい黄褐色土層　暗褐色土ブロック（φ３cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや緩まる。
41 層　10YR4/4　褐色土層　ロームブロック（φ１～３cm）を少量含む。粘性を持ち、やや緩まりに欠ける。
42 層　10YR4/6　褐色土層　ロームブロック（φ２～４cm）を少量含む。粘性を持ち、やや緩まりに欠ける。
43 層　10YR4/6　褐色土層　ロームブロック土体。粘性を持ち、やや緩まる。

第30図　土坑7（1／60）



880 号土坑

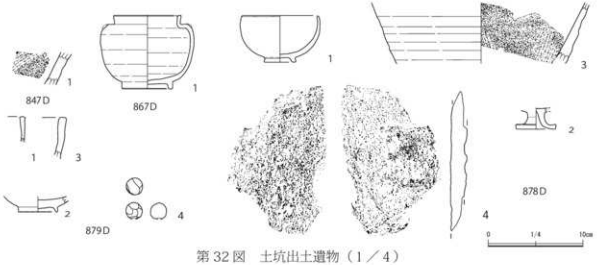
第 31 図　土坑８（１／６０）

遺構名	位　置	平面形	規　模（m）			長軸方位	覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ				
839D	（Ｂ－４）Ｇ	楕円形	0.50	0.46	0.145	N－63°－E	３層（第 24 図）	遺物なし	中世以降
840D	（Ｂ－４）Ｇ	楕円形	0.70	0.40	0.25	N－15°－W	４層（第 24 図）／ 841D を切る	遺物なし	中世以降
841D	（Ｃ－３・４）Ｇ	長楕円形	3.60	0.65	0.57	N－53°－W	６層（第 24 図）／ 840D に切られる	遺物なし	中世以降
843D	（Ｂ－３）Ｇ	不正円形	0.65	0.60	0.30	N－16°－W	５層（第 24 図）	遺物なし	中世以降
844D	（Ｃ－３）Ｇ	長方形	2.20	1.20	0.18	N－11°－E	６層（第 24 図）／段切状遺構を切る	土師質土器１点／図示できなかった	中世以降
845D	（Ｃ－４・５）Ｇ	長方形	0.80	0.45	0.135	N－26°－E	２層（第 24 図）／段切状遺構、855D を切る	土師質土器１点／図示できなかった	中世以降
846D	（Ｂ・Ｃ－３）Ｇ	隅丸方形	1.30	1.00	0.07	N－60°－W	５層（第 24 図）／段切状遺構を切る／ 31P に切られる	遺物なし	中世以降
847D	（Ｃ－２・３）Ｇ	楕円形	1.40	0.60	0.62	N－45°－E	６層（第 24 図）	陶器１点	中　世（16c）
848D	（Ｂ－２・３）Ｇ	楕円形	1.35	0.85	1.03	N－75°－E	31 層（第 25 図）／ 83P を切る	遺物なし	中世以降
849D	（Ｃ－４）Ｇ	楕円形	1.25	0.50	0.27	N－80°－W	２層（第 25 図）／ 66P に切られる	遺物なし	中世以降
850D	（Ｂ－２）Ｇ	楕円形	1.35	1.15	0.16	N－26°－W	２層（第 25 図）／ 852D を切る	遺物なし	中世以降
851D	（Ｂ・Ｃ－３・４）Ｇ	長楕円形	2.70	0.65	0.29	N－28°－E	６層（第 25 図）	遺物なし	中世以降

第 14 表　土坑一覧（１）

遺構名	位　置	平面形	規　模（m）			長軸方位	覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ				
852D	（B－2）G	不正楕円形	1.40	1.05	0.63	N－71°－W	6層（第25図）／850Dに切られる	遺物なし	中世以降
853D	（D－1）G	不正楕円形	0.55	0.45	0.125	N－70°－E	3層（第26図）	遺物なし	中世以降
854D	（B－3）G	不正円形	0.45	0.43	0.28	N－24°－W	3層（第26図）	遺物なし	中世以降
855D	（C－5）G	不正楕円形	0.50	0.45	0.23	N－46°－W	4層（第26図）／845Dに切られる	遺物なし	中世以降
856D	（C－4）G	円形	0.60	0.50	0.25	N－63°－W	3層（第26図）	遺物なし	中世以降
857D	（B－5）G	楕円形	0.55	0.45	0.375	N－47°－E	7層（第26図）／7Pを切る	遺物なし	中世以降
858D	（B－5）G	隅丸方形	0.80	0.40	0.14	不明	3層（第26図）	遺物なし	中世以降
859D	（E－4）G	不正長方形	1.00	0.70	0.38	N－47°－W	単層／ローム粒子・小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
860D	（D・E－4）G	楕円形	0.60	0.45	0.24	N－40°－W	単層／ローム粒子・小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
861D	（B－6）G	長方形	0.45	0.30	0.11	N－92°－E	単層／ローム粒子・小ブロックを含む暗褐色土／12Pに切られる	遺物なし	中世以降
862D	（A－2）G	不明	0.95	0.60	0.67	不明	5層（第27図）	遺物なし	中世以降
863D	（D・E－4）G	不整形	2.90	1.25	0.83	N－34°－E	8層（第27図）／段切状遺構、864・871・875Dを切る	磁器1点、ガラス片、植木鉢／図示できなかった	近・現代
864D	（D－4）G	不正長方形	1.65	0.45	0.295	N－42°－E	4層（第27図）／875Dを切る／863Dに切られる	遺物なし	中世以降
865D	（D－3）G	楕円形	1.10	0.75	0.415	N－42°－E	単層／ローム粒子・小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
866D	（C・D－5）G	楕円形	0.70	0.45	0.27	N－18°－W	4層（第27図）	遺物なし	中世以降
867D	（D－3・4）G	長楕円形	1.75	0.65	0.62	N－29°－E	4層（第28図）／段切状遺構、874・876・878Dを切る	陶器1点	近　世（18c）
868D	（D－4）G	不正円形	1.90	0.80	0.23	N－27°－E	5層（第28図）／878Dを切る	遺物なし	中世以降
869D	（D－1）G	楕円形	0.95	0.55	0.28	N－58°－E	3層（第28図）	遺物なし	中世以降
870D	（D－3・4）G	円形	0.85	0.80	0.15	N－25°－W	2層（第28図）／段切状遺構、874Dを切る	遺物なし	中世以降
871D	（D・E－3・4）G	長方形	1.10	0.55	0.20	N－52°－W	単層／ローム粒子・小ブロックを含む暗褐色土／863・864Dを切られる	遺物なし	中世以降
872D	（D－4）G	長方形	1.55	0.80	0.32	N－23°－E	4層（第28図）	遺物なし	中世以降
873D	（C・D－3）G	長方形	4.35	0.65	0.22	N－72°－W	3層（第28図）／876D、95・96・119Pに切られる	遺物なし	中世以降
874D	（D－4）G	楕円形	0.80	0.65	0.36	N－30°－E	4層（第28図）／878Dを切る／867・870Dに切られる	遺物なし	中世以降
875D	（D－4）G	楕円形	1.05	0.75	0.29	N－15°－E	4層（第28図）／863D、100Pに切られる	遺物なし	中世以降
876D	（D－3）G	長方形	1.40	0.95	0.38	N－15°－E	単層／ローム粒子・小ブロックを含む暗褐色土／873Dを切る／867Dに切られる	遺物なし	中世以降
878D	（D－3・4）G	地下式坑 主体部：方形	2.20	1.90	2.78	N－20°－E	竪坑部:14層（第29図）／主体部:不明／867・868・870・874D、113・115・116Pに切られる	陶器3点、板碑1点	中　世（16c）
		竪坑部：円形	2.31	1.83	2.88	N－80°－E			
879D	（D－2・3）G	地下式坑 主体部：方形	3.10	2.00	1.45	N－44°－W	竪坑・主体部：43層（第30図）	陶器1点、磁器1点、瓦質土器1点、不明土製品1点	中　世（16c）
		竪坑部：円形	1.30	0.90	1.08	N－65°－W			
880D	（D・E－1・2）G	地下式坑 主体部：方形	4.00	3.60	2.68	N－24°－E	調査のため覆土の堆積状況は不明／1号道路状遺構を切る	遺物なし	中世以降
		竪坑部：円形	1.30	0.70	2.43	N－80°－E			

第14表　土坑一覧（2）



第 32 図　土坑出土遺物（1／4）

挿図番号 図版番号	遺構名	種　別	器　種	法　量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時　期
第 32 図 1 図版 14-1-1	847 D	陶　器	擂　鉢	高［3.3］	体部片／外面に横位の凹縁めぐり、内面には６条以上の櫛目を施す／色調は外面：茶色、内面：黄灰色／胎土に白色粒子・砂粒・石英含む	瀬戸系	中世 (16c)
第 32 図 1 図版 14-1-1	867 D	陶　器	壺	口（7.0） 高 7.8 底 5.2	直立する高台部から体部は外傾して立ちあがる／体部中位から上位にかけて立ちあがり、肩部が張る／内外面灰釉／耳痕／口縁部外傾／外面縦かい貫入／色調は灰青色／胎土に白色粒子・砂粒含む	美濃系	近世 (18c)
第 32 図 1 図版 14-1-1	878 D	陶　器	丸　碗	口（8.0） 高 2.0 底（7.4）	高台は短く直立／体部は内湾／口縁部ややや内側に直立／内外面灰釉／高台部は素地のまま／色調は内外面：灰釉／胎土に砂粒・石英含む	美濃系	近世 (18c)
第 32 図 2 図版 14-1-2	878 D	陶　器	擂　鉢	高［6.3］	体部片／外面横位の凹縁を３条以上めぐす／内面 10 条程の櫛目／内外面炭化物付着／色調は外面：茶灰色、内面：茶色／胎土に白色粒子・赤色粒子・砂粒・石英含む	瀬戸系	中世 (16c)
第 32 図 3 図版 14-1-3	878 D	陶　器	供物台	高［2.2］ 底 4.1	脚部は平坦な台部から直立／碗部から脚部上位の内面に透明釉／貫入／脚部下位から台部は素地のまま／色調は外面：青灰釉、内面：黄白色／胎土に砂粒含む	美濃系	近世 (18c)
第 32 図 1 図版 14-1-1	879 D	陶　器	猪　口	高［2.7］	口縁部は体部から直立／口唇部は平坦に作出される／内外面黄釉／色調は黄色／胎土に白色粒子・砂粒含む	瀬戸系	近世 (17c)
第 32 図 2 図版 14-1-2	879 D	磁　器	碗	高［1.7］ 底（4.0）	直立する高台部から体部は外傾して開く／内外面に透明釉／染付：外面に二重圏線と風景／色調は灰白色／胎土に砂粒含む	肥前系	近世 (18c)
第 32 図 3 図版 14-1-3	879 D	瓦質土器	土　鍋	高［4.3］	口縁部は体部から直立／口唇部は平坦に作出される／内外面ともヨコナデ整形／外面煤付着／色調は暗灰色／胎土に白色粒子・砂粒含む	在地産	中世 (16c)

第 15 表　土坑出土陶磁器・土器一覧

(4) 道路状遺構

本遺跡南部から１本検出された。また、当遺跡と隣接する第 220 地点の調査においても道路状遺構が検出されているが、本遺構と同一であると考えられる。なお、調査区西側の崖線に向かっていることから、台地上から低地部に降りる通路として利用されていたと推測される。

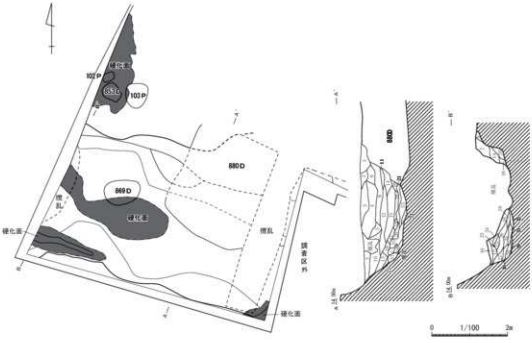
１号道路状遺構

遺　　構　（第 33 図）

［位　　置］（D・E－１・２）グリッド。

［検出状況］ 880D に切られる。

［構　　造］ **断面形**：不整形。**規模**：長さ 6.10m ／幅 3.98m 以上／深さ 1.20cm。**硬化面範囲**：長さ



第 33 図　１号道路状遺構（1／100）

A－A'　B－B'

1 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子・ロームブロック（φ 0.5 cm）を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

2 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子・ロームブロック（φ 0.5 cm）を少量含む。粘性を持ち、締まる。

3 層　10YR/4　褐色土層　ロームブロック（φ 0.5 ～ 1 cm）を多量に、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、締まる。

4 層　10YR/4　褐色土層　ロームブロック（φ 2 ～ 3 cm）を多量に、ローム粒子を微量含む。粘性を持ち、やや締まる。

5 層　10YR/4　褐色土層　ロームブロック（φ 1 ～ 2 cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、締まる。

6 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量、ロームブロック（φ 0.5 cm）を微量含む。粘性を持ち、やや締まる。

7 層　10YR/4　褐色土層　ロームブロック（φ 0.5 ～ 1 cm）を多量に、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、締まる。

8 層　10YR/4　褐色土層　ロームブロック（φ 2 ～ 3 cm）を多量に、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

9 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

10 層　10YR3/3　暗褐色土層　ロームブロック（φ 0.5 cm）・ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。

11 層　10YR/4　褐色土層　ロームブロック（φ 0.5 ～ 2 cm）を多量に、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

12 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子・ロームブロック（φ 0.5 ～ 1 cm）・褐色土を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

13 層　10YR/4　褐色土層　ロームブロック（φ 0.5 ～ 1 cm）を多量に、ローム粒子・暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

14 層　10YR/4　褐色土層　ロームブロック（φ 0.5 ～ 1 cm）を多量に、暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

15 層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。

16 層　10YR/4　褐色土層　ロームブロック（φ 0.5 ～ 2 cm）を少量含む。粘性を持ち、締まる。

17 層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

18 層　10YR/3　にぶい黄褐色土層　ロームブロック（φ 0.5 cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

19 層　10YR/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒子を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。

20 層　10YR/4　褐色土層　ロームブロック（φ 0.5 ～ 1 cm）・ローム粒子・暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

21 層　10YR3/3　暗褐色土層　ロームブロック（φ 1 ～ 0.5 cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

22 層　10YR/3　にぶい黄褐色土層　ロームブロック（φ 1 ～ 0.5 cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、締まる。

23 層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ 1 ～ 0.5 cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、締まる。

24 層　10YR/4　褐色土層　ロームブロック（φ 1 ～ 2 cm）を少量含む。粘性を持ち、締まる。

25 層　10YR3/4　暗褐色土層　ローム粒子・ロームブロック（φ 0.5 cm）を少量含む。粘性を持ち、締まる。

26 層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まりに欠ける。

27 層　10YR/4　褐色土層　ロームブロック（φ 1 ～ 2 cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。

28 層　10YR/4　褐色土層　ロームブロック（φ 1 ～ 2 cm）を少量、ローム粒子・暗褐色土を微量含む。粘性を持ち、やや締まる。

29 層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ 0.5 cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。

30 層　10YR3/2　黒褐色土層　ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

31 層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を多量に、ロームブロック（φ 1 ～ 2 cm）を少量含む。粘性を持ち、やや締まる。

32 層　10YR/3　にぶい黄褐色土層　ロームブロック（φ 2 cm）を多量に含む。粘性を持ち、締まる。

33 層　10YR3/3　暗褐色土層　ローム粒子を微量含む。粘性を持ち、締まる。

34 層　10YR/3　にぶい黄褐色土層　ロームブロック（φ 2 cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。粘性を持ち、締まる。

35 層　10YR/4　褐色土層　ローム粒子を多量に、ロームブロック（φ 0.5 ～ 3 cm）・暗褐色土を少量含む。粘性を持ち、締まる。

36 層　10YR3/4　暗褐色土層　ロームブロック（φ 1 ～ 2 cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや締まりに欠ける。

37 層　10YR/3　にぶい黄褐色土層　ロームブロック（φ 2 cm）を多量に含む。粘性を持ち、やや締まる。

38 層　10YR/4　褐色土層　ロームブロック（φ 2 ～ 3 cm）を多量、ローム粒子を微量含む。粘性を持ち、やや締まる。

1.9m ／幅 0.6m ／深さ 55㎝。**長軸方位**：N － 40°－ W。**掘り方**：38 層に分層された。本来は溝状に掘り込んでいたものであるが、埋没後に道路として利用されたと考えられる。１～３層の上面が踏み固められて硬化している。なお、北西側と南西側でも硬化面を検出した。これらの硬化面は西の調査区外に向かって伸びており、今回調査された範囲の中央部周辺で二股に分かれていたと想定できるが、詳細は不明である。

［遺　　物］　９点出土している。内訳は土師質土器１点、陶器３点、磁器１点、瓦１点、石製品１点、礫２点である。そのうち陶器１点、石製品１点を図示した。

［時　　期］　第 220 地点の調査において、中世～近世（14 ～ 19 世紀）に比定されている。

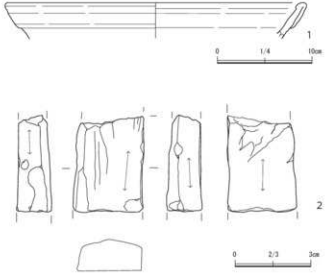
遺　　物　（第 34 図、図版 14 －２－１・２、第 16 表）

［陶　　器］（第 34 図、図版 14 －２－１、第 16 表）

１は陶器の擂鉢で、口縁部は折り返され、内外面に鉄釉を施す。近世の 18 世紀に比定される。

［石 製 品］（第 34 図、図版 14 －２－２）

２は砥石で、長さ 3.8㎝・幅 2.7㎝・厚さ 1.4㎝・重量 22g を測る。砥面が３面あり、荒砥石１面、仕上げ砥石２面である。



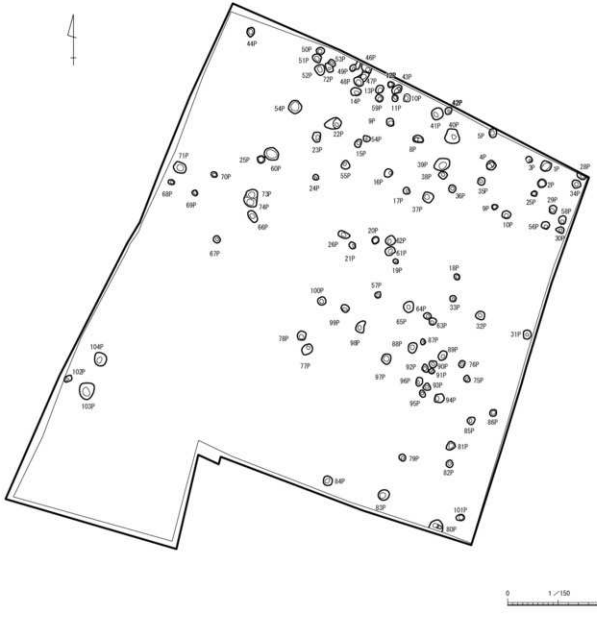
第 34 図　１号道路状遺構出土遺物（１／４・２／３）

挿図番号 図版番号	種　別	器　種	法　量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時　期
第 34 図 1 図版 14-2-1	陶　器	擂　鉢	口 〔31.5〕 高 (3.8)	口縁部～体部片／口縁部折り返し／内外面鉄釉／色調は暗褐色／胎土に長石含む	瀬戸系	近　世 (18c)

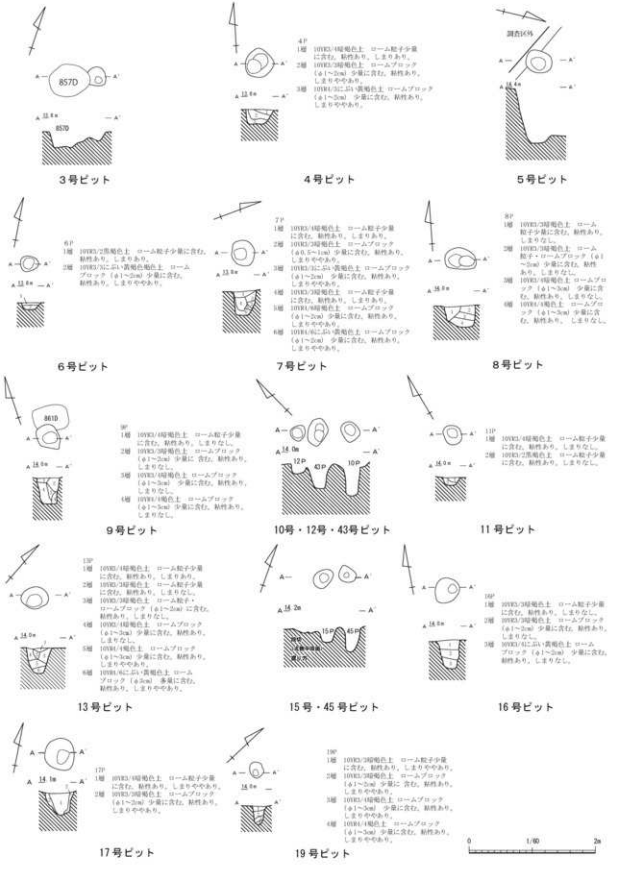
第 16 表　１号道路状遺構出土陶器一覧

(5) ピット

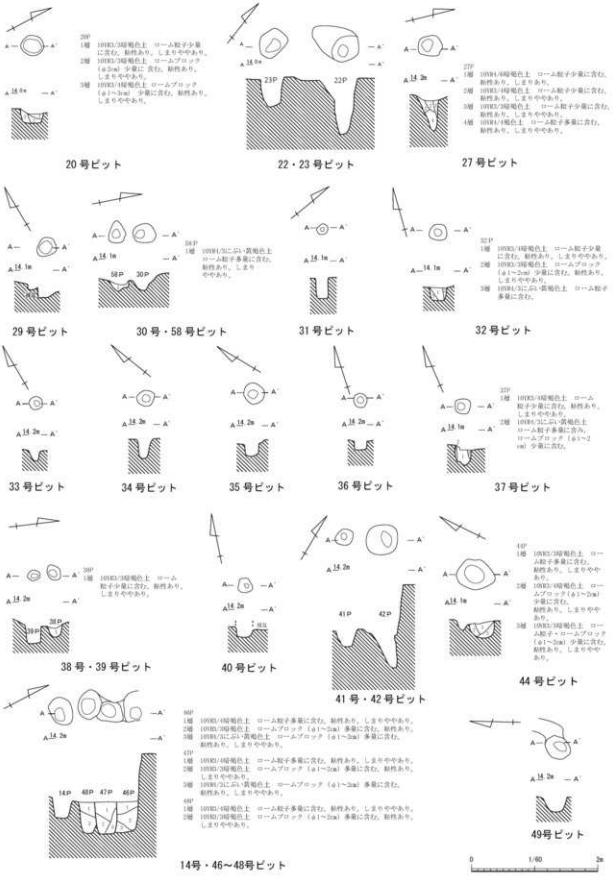
ピットは 104 本が検出し、中世以降の時期であると考えられる。明確に時期を判断するのが難しく、重複関係や土層観察の結果から時代の特定を行った。ここでは，第 35 ～ 39 図と第 17 表で示す。



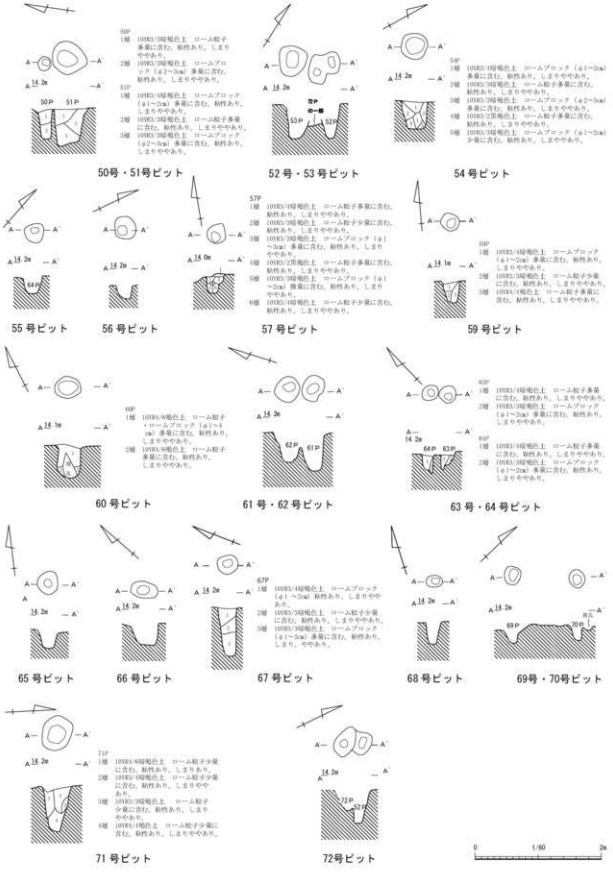
第 35 図　ピット位置図（1／150）



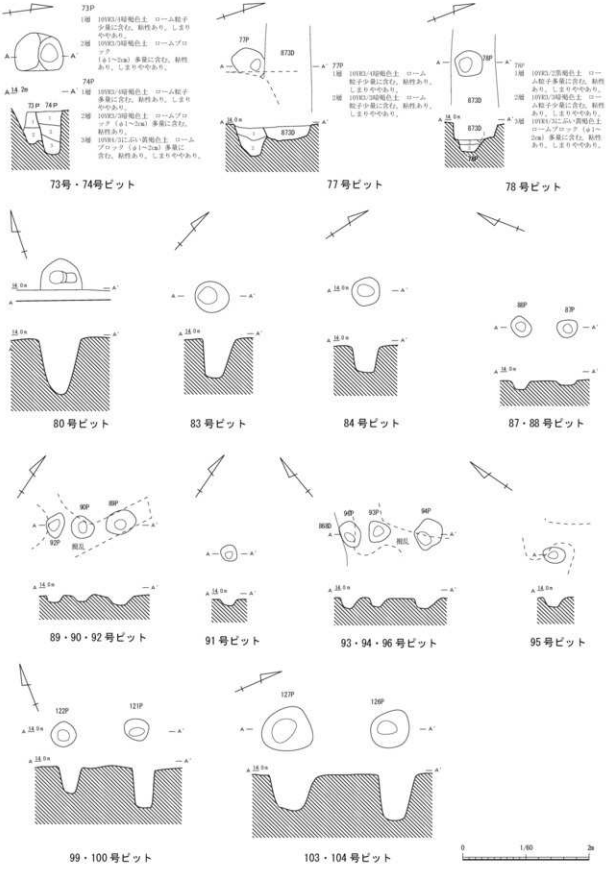
第36図　ピット１（１／60）



第37図　ピット２（１／60）



第38図　ピット３（１／60）



第39図　ピット４（１／60）

遺構番号	位　置	平面形	規　模（m）			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
1 P	（B－5）G	円形	0.4	0.4	0.21	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
2 P	（B－5）G	円形	0.3	0.3	0.28	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
3 P	（B－5）G	円形	0.25	1.25	0.12	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る／857D に切られる	遺物なし	中世以降
4 P	（B－4）G	楕円形	0.4	0.35	0.31	4 層（第 36 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
5 P	（B－4）G	楕円形	0.35	0.3	0.86	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
6 P	（B－4）G	楕円形	0.25	0.2	0.70	2 層（第 36 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
7 P	（B・C － 4）G	楕円形	0.35	0.3	0.45	6 層（第 36 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
8 P	（B－4）G	楕円形	0.4	0.25	0.49	4 層（第 36 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
9 P	（B－4）G	楕円形	0.31	0.29	0.35	4 層（第 36 図）／段切状遺構（北側中段面）・861D を切る	遺物なし	中世以降
10 P	（B－4）G	楕円形	0.3	0.25	0.51	単層／ロームブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
11 P	（B－4）G	円形	0.3	0.25	0.19	2 層（第 36 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
12 P	（A－4）G	円形	0.25	0.25	0.18	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
13 P	（A・B － 3）G	楕円形	0.4	0.3	0.40	6 層（第 36 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
14 P	（A・B － 3）G	楕円形	0.4	0.3	0.40	単層／ロームブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
15 P	（B－3）G	楕円形	0.35	0.25	0.25	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
16 P	（B－4）G	楕円形	0.35	0.3	0.76	3 層（第 36 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
17 P	（B－4）G	円形	0.29	0.28	0.37	2 層（第 36 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
18 P	（C－4）G	楕円形	0.25	0.22	0.14	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
19 P	（C－4）G	楕円形	0.22	0.18	0.40	4 層（第 36 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
20 P	（C－3）G	円形	0.30	0.28	0.26	3 層（第 37 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
21 P	（C－3）G	円形	0.28	0.26	0.29	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
22 P	（B－3）G	楕円形	0.67	0.44	0.95	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
23 P	（B－3）G	不整楕円形	0.4	0.35	0.48	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
24 P	（B－3）G	円形	0.23	0.23	0.29	単層／ロームブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
25 P	（B－2・3）G	円形	0.31	0.3	0.10	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
26 P	（C－3）G	楕円形	0.45	0.25	0.37	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）・846 D を切る	遺物なし	中世以降
27 P	（B－5）G	楕円形	0.33	0.29	0.48	4 層（第 37 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降

第 17 表　ピット一覧（1）

遺構番号	位　置	平面形	規　模（m）			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
28 P	（B－5）G	楕円形	0.39	0.15	0.16	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
29 P	（B－5）G	楕円形	0.24	0.21	0.42	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
30 P	（C－5）G	不整楕円形	0.33	0.24	0.32	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
31 P	（C－5）G	楕円形	0.24	0.30	0.35	単層／ロームブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
32 P	（C－4）G	円形	0.37	0.35	0.23	3層（第37図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
33 P	（C－4）G	円形	0.25	0.25	0.17	単層／ロームブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
34 P	（B－5）G	楕円形	0.47	0.32	0.36	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
35 P	（B－4）G	楕円形	0.31	0.27	0.20	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
36 P	（B－4）G	楕円形	0.31	0.28	0.16	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／839Dを切る／段切状遺構（北側中段面）に切られる	遺物なし	中世
37 P	（B－4）G	円形	0.44	0.44	0.64	2層（第37図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
38 P	（B－4）G	楕円形	0.35	0.26	0.30	単層（第37図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世
39 P	（B－4）G	楕円形	0.65	0.49	0.41	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
40 P	（B－4）G	不定形	0.58	0.56	0.21	単層／ロームブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）に切られる	遺物なし	中世
41 P	（B－4）G	隅丸方形	0.50	0.48	0.29	単層／ロームブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
42 P	（B－4）G	楕円形	0.31	0.26	1.34	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
43 P	（A・B－4）G	楕円形	0.44	0.32	0.41	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
44 P	（A－2）G	楕円形	0.38	0.28	0.25	3層（第37図）／段切状遺構（北側下段面）を切る	遺物なし	中世以降
45 P	（B－3）G	不定形	0.27	0.24	0.41	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
46 P	（A－3）G	楕円形	0.35	0.29	1.25	3層（第37図）／段切状遺構（北側中段面）を切り56Pに切られる	遺物なし	中世以降
47 P	（A－3）G	不整楕円形	0.39	0.30	1.31	3層（第37図）／段切状遺構（北側中段面）・55Pを切る／57Pに切られる	遺物なし	中世以降
48 P	（A－3）G	楕円形	0.42	0.33	0.62	2層（第37図）／段切状遺構（北側中段面）・56Pを切る	遺物なし	中世以降
49 P	（A－3）G	楕円形	0.28	0.23	0.26	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
50 P	（A－3）G	楕円形	0.32	0.28	0.54	2層（第38図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
51 P	（A－3）G	楕円形	0.38	0.32	0.58	3層（第38図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
52 P	（A－3）G	不整楕円形	0.41	0.39	0.54	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
53 P	（A－3）G	楕円形	0.30	0.22	0.55	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る／82Pに切られる	遺物なし	中世以降

第17表　ピット一覧（2）

遺構番号	位　置	平面形	規　模（m）			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
54 P	（B－3）G	円形	0.59	0.59	0.41	5 層（第 38 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
55 P	（B－3）G	三角形	0.34	0.33	0.34	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
56 P	（C－5）G	楕円形	0.30	0.28	0.23	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）に切られる	遺物なし	中世
57 P	（C－3）G	円形	0.23	0.23	0.32	6 層（第 38 図）／段切状遺構（北側中段面）・849 D を切る	遺物なし	中世以降
58 P	（C－5）G	楕円形	0.36	0.28	0.20	単層（第 37 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世
59 P	（B－3）G	隅丸長方形	0.29	0.26	0.37	3 層（第 38 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
60 P	（B－3）G	楕円形	0.59	0.49	0.57	2 層（第 38 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
61 P	（C－4）G	楕円形	0.42	0.32	0.61	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）に切られる	遺物なし	中世
62 P	（C－4）G	円形	0.38	0.35	0.46	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）に切られる	遺物なし	中世
63 P	（C－4）G	円形	0.28	0.28	0.22	2 層（第 38 図）／段切状遺構（北側中段面）に切られる	遺物なし	中世
64 P	（C－4）G	楕円形	0.31	0.26	0.31	2 層（第 38 図）／段切状遺構（北側中段面）に切られる	遺物なし	中世
65 P	（C－4）G	楕円形	0.46	0.29	0.33	単層／ローム粒子中量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
66 P	（B・C－4）G	隅丸長方形	0.50	0.31	0.39	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）に切られる	遺物なし	中世
67 P	（C－2）G	楕円形	0.29	0.25	0.76	3 層（第 38 図）／段切状遺構（北側中段面）に切られる	遺物なし	中世
68 P	（B－2）G	楕円形	0.27	0.19	0.37	単層／ロームブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
69 P	（B－2）G	楕円形	0.23	0.21	0.20	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
70 P	（B－2）G	楕円形	0.26	0.19	0.25	単層／ロームブロック中量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
71 P	（B－2）G	楕円形	0.51	0.42	0.69	4 層（第 38 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
72 P	（A－3）G	楕円形	0.42	0.25	0.36	単層／ローム粒子・ブロック中量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）・62P を切る	遺物なし	中世以降
73 P	（B－2）G	楕円形	0.46	0.25	0.57	2 層（第 39 図）／段切状遺構（北側中段面）・84P を切る／ 848 D に切られる	遺物なし	中世以降
74 P	（B－2）G	楕円形	0.55	0.35	0.72	3 層（第 39 図）／段切状遺構（北側中段面）を切る／83P に切られる	遺物なし	中世以降
75 P	（D－4）G	楕円形	0.27	0.23	0.21	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
76 P	（D－4）G	隅丸長方形	0.28	0.22	0.42	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る	遺物なし	中世以降
77 P	（D－3）G	隅丸長方形	0.44	0.36	0.23	2 層（第 39 図）／段切状遺構（最上段面）を切る／873 D に切られる	遺物なし	中世以降
78 P	（C－3）G	方形	0.36	0.33	0.34	3 層（第 39 図）／段切状遺構（最上段面）を切る／873 D に切られる	遺物なし	中世以降
79 P	（D－4）G	楕円形	0.28	0.25	0.25	単層／ロームブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）・864 D を切る	遺物なし	中世以降

第 17 表　ピット一覧（3）

遺構番号	位　置	平面形	規　模（m）			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
80 P	（E－4）G	楕円形	0.55	0.40	0.50	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）を切る	遺物なし	中世以降
81 P	（D－4）G	三角形	0.36	0.30	0.43	単層／ローム粒子中量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）・875 Dを切る	遺物なし	中世以降
82 P	（D－4）G	円形	1.0	0.9	0.34	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）を切る	遺物なし	中世以降
83 P	（E－3・4）G	円形	0.46	0.41	0.86	単層／ロームブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）を切る	遺物なし	中世以降
84 P	（E－3）G	円形	0.39	0.38	0.60	単層／ローム粒子・ブロック中量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）を切る	遺物なし	中世以降
85 P	（D－4）G	円形	0.31	0.29	0.20	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）を切る	遺物なし	中世以降
86 P	（D－4）G	円形	0.29	0.28	0.50	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）に切られる	遺物なし	中世
87 P	（D－4）G	円形	0.26	0.27	0.37	単層／ロームブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）に切られる	遺物なし	中世
88 P	（D－4）G	長方形	0.28	0.25	0.49	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）に切られる	遺物なし	中世
89 P	（D－4）G	楕円形	0.42	0.31	0.37	単層／ローム粒子・ブロック中量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）に切られる	遺物なし	中世
90 P	（D－4）G	円形	0.31	0.30	0.35	単層／ロームブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）に切られる	遺物なし	中世
91 P	（D－4）G	円形	0.23	0.23	0.37	単層／ローム粒子・ブロック中量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）に切られる	遺物なし	中世
92 P	（D－4）G	楕円形	0.35	0.23	0.33	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）に切られる	遺物なし	中世
93 P	（D－4）G	三角形	0.30	0.30	0.50	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）に切られる	遺物なし	中世
94 P	（D－4）G	隅丸長方形	0.40	0.36	0.13	単層／ロームブロック中量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）に切られる	遺物なし	中世
95 P	（D－4）G	楕円形	0.30	0.21	0.26	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）に切られる	遺物なし	中世
96 P	（D－4）G	楕円形	0.34	0.26	0.17	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）に切られる	遺物なし	中世
97 P	（D－3・4）G	隅丸長方形	0.41	0.36	0.25	単層／ローム粒子・ブロック中量含む暗褐色土／段切状遺構（北側中段面）を切る／873・876 Dに切られる	遺物なし	中世以降
98 P	（C－3）G	不整楕円形	0.48	0.34	0.83	単層／ロームブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側下段面）を切る	遺物なし	中世以降
99 P	（C－3）G	方形	0.33	0.31	0.43	単層／ローム粒子少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側下段面）を切る	遺物なし	中世以降
100 P	（C－3）G	円形	0.34	0.34	0.29	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（北側下段面）を切る	遺物なし	中世以降
101 P	（E－4）G	楕円形	0.33	0.25	0.12	単層／ロームブロック中量含む暗褐色土／段切状遺構（最上段面）を切る	銭貨２点	近世
102 P	（D－1）G	長方形	0.32	0.21	0.24	単層／ローム粒子・ブロック少量含む暗褐色土／段切状遺構（南側下段面）を切る	遺物なし	中世以降
103 P	（D－1）G	不整形	0.66	0.54	0.30	単層／ローム粒子中量含む暗褐色土／段切状遺構（南側下段面）を切る	遺物なし	中世以降
104 P	（D－1）G	楕円形	0.57	0.49	0.28	単層／ローム粒子・ブロック中量含む暗褐色土／段切状遺構（南側下段面）を切る	遺物なし	中世以降

第17表　ピット一覧（4）

第40図　101号ピット出土銭貨（1／1）

挿図番号 図版番号	銭貨名	法量				文様・特徴
		銭径長 (cm)	内径長 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第40図1 図版14-3-1	寛永通寶	2.33	0.61	0.15	2.0	腐食が進み緑青が全体を被覆／新寛永／青灰色
第40図2 図版14-3-2	寛永通寶か	2.40	0.60	0.13	1.6	腐食が進み文字不明瞭。／緑灰色

第18表　101号ピット出土銭貨一覧

第4節　遺構外出土遺物

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物や、遺構内であるが明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、旧石器時代の石器、縄文時代の遺物、弥生時代後期～古墳時代前期の土器、中世以降の遺物に分類する。

（1）旧石器時代の石器（第41図、図版15－1～11、第19表）

1は黒曜石製の楔形石器である。複剥離打面をもつ幅広不定形な剥片素材である。2は二次加工を有する剥片で、単打面の縦長剥片素材である。末端部が折れ、背面右側縁に二次加工がある。3・5・6・9はチャート、4・7・8・10・11は黒曜石である。

（2）縄文時代の遺物（第42図12～18、図版15－12･13、図版16－14～18、第19･20表）

［石　　器］（第42図12～14、図版15－12・13、図版16－14、第19表）

12・13は撥形を呈する打製石斧である。12は自然面が多い縦長剥片素材で、石材は頁岩である。13は刃部が欠損している。石材はホルンフェルスである。14は片岩製の蔵石で、下端部を欠損する。両面に研磨が認められ、上端部に研ぎ面および蔵打状の剥離痕がある。

［土　　器］（第42図15～18、図版16－15～18、第20表）

15は早期後葉の条痕文土器である。

16～18は前期後葉の諸磯式で、16は諸磯a式、17・18は諸磯b式である。

（3）弥生時代後期～古墳時代前期の土器（第42図19～21、図版16－19～21、第20表）

19は壺形土器、20は甕形土器である。21は小型鉢で、内面に指頭痕による成形がみられる。詳細時期は不明である。

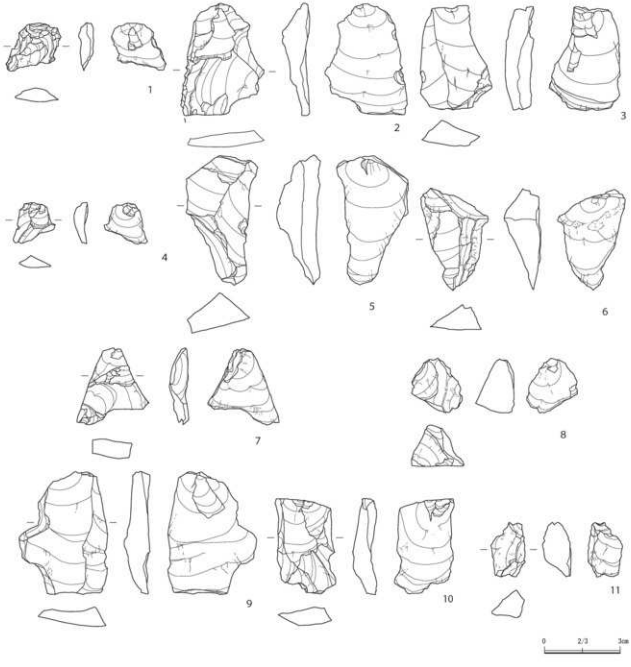
（４）中世以降の遺物（第 42 図 22・23、図版 16 － 22・23、第 21 表）

［石 製 品］（第 42 図 22、図版 16 － 22）

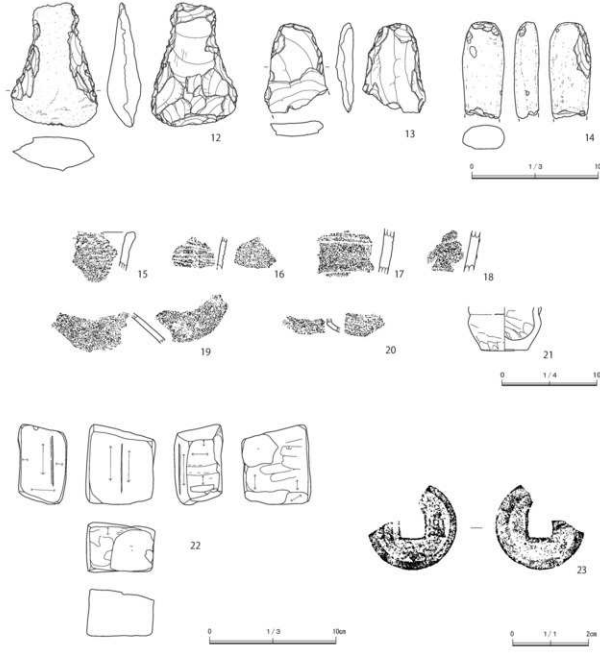
22 凝灰岩製の砥石は長さ 4.8㎝、幅 4.1㎝、厚さ 2.9㎝、重量 190.1g、砥面 4 面で、仕上げ砥石として利用されたと考えられる。

［銭　　貨］（第 42 図 23、図版 16 － 23、第 21 表）

23 の銭貨は寛永通宝で、腐食が進み、1/4 が欠損している。



第 41 図　遺構外出土遺物１（２／３）



第 42 図　遺構外出土遺物２（１／３・１／４・１／１）

挿図番号 図版番号	器　種	石　材	遺存状況	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　　徴	出土位置
第 41 図 1 図版 15-1	楔形石器	黒曜石	完　形	1.9	2.2	0.6	1.5	複剥離打面の幅広不定形な剥片素材	877D
第 41 図 2 図版 15-2	二次加工を有する剥　片	黒曜石	完　形	4.4	3.2	1.1	1.4	単打面の縦長剥片素材／末端部折れ／背面右側縁に連続した二次加工	段切中段面
第 41 図 3 図版 15-3	剥　片	チャート	完　形	4.1	2.7	1.1	9.6	単打面／末端はヒンジフラクチャー	段切中段面
第 41 図 4 図版 15-4	剥　片	黒曜石	完　形	1.6	1.6	0.5	0.7	線打面／頭部調整	段切中段面
第 41 図 5 図版 15-5	剥　片	チャート	完　形	5.1	2.8	1.6	12.1	複剥離打面／末端はフェザー状の側面形	表土
第 41 図 6 図版 15-6	剥　片	チャート	完　形	4.0	2.6	1.4	7.9	複剥離打面／表裏部節理あり	段切中段面 掘り方
第 41 図 7 図版 15-7	剥　片	黒曜石	完　形	3.1	2.9	0.8	3.5	単打面／腹面基部にハジケ	TP03 内攪乱
第 41 図 8 図版 15-8	剥　片	黒曜石	完　形	2.2	2.0	1.6	3.9	厚手／線打面／見えない垂直な剥離	847D
第 41 図 9 図版 15-9	剥　片	チャート	完　形	4.8	3.5	1.0	11.2	複剥離打面／末端折れ／バルバースカー発達	段切中段面 掘り方
第 41 図 10 図版 15-10	剥　片	黒曜石	完　形	3.6	2.3	0.9	5.8	複剥離打面	段切中段面
第 41 図 11 図版 15-11	剥　片	黒曜石	完　形	2.2	1.6	1.1	2.3	複剥離打面	段切中段面
第 42 図 12 図版 15-12	打製石斧	頁　岩	完　形	9.8	6.7	2.6	142.9	撥形／正面に原礫面／縦長剥片素材	872D
第 42 図 13 図版 15-13	打製石斧	ホルンフェルス	完　形	(7.2)	5.0	1.3	44.0	撥形／刃部欠	844D
第 42 図 14 図版 16-14	敲　石	片　岩	先端部欠損	(7.5)	3.3	1.7	79.2	棒状の礫素材／下端部を欠損／上端部と両面に研磨／上端部に敲打状の剥離痕	段切中段面

第 19 表　遺構外出土石器一覧

挿図番号 図版番号	器　種	法量 (cm)	製作の特徴等	時期 型式	出土位置
第 42 図 15 図版 16-15	深　鉢	厚 0.9	口縁部片／口唇部と口縁端部に斜位の刻み目を付す／内外面粗いナデ／色調は褐色／胎土に白色粒子・砂粒含む	縄文時代 早期 (条痕文系)	872 D
第 42 図 16 図版 16-16	深　鉢	厚 0.6	体部片／半裁竹管による横走沈線文を施し、その上に縦位の刺突列を加え、円形竹管文も施す／色調は褐色／胎土に白色粒子・砂粒・石英・角閃石含む	縄文時代 前期後葉 (諸磯 a 式)	863 D
第 42 図 17 図版 16-17	深　鉢	厚 1.1	体部片／横走する半裁竹管文を施す／地文に粗い単節縄文 RL を施す／色調は暗褐色／胎土に白色粒子・赤色粒子・砂粒・石英含む	縄文時代 前期後葉 (諸磯 b 式)	863 D
第 42 図 18 図版 16-18	深　鉢	厚 1.0	体部片／単節縄文 RL を横位回転で施し、その上に 2 条の刺突を加えた沈線文を施す／色調は赤褐色／胎土に白色粒子・砂粒・石英含む	縄文時代 前期後葉 (諸磯 b 式)	調査区西側
第 42 図 19 図版 16-19	壺形土器	厚 0.6	体部片／内面、ミガキによる整形／外面、刷毛目成形後、ミガキ整形／色調は灰褐色／胎土に白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・砂粒含む	弥生後期～ 古墳前期	863 D
第 42 図 20 図版 16-20	甕形土器	厚 0.5	頸部片／外面に斜位の刷毛目を施し、内面には横位と斜位の粗い刷毛目を施す／色調は褐色／胎土に白色粒子・赤色粒子・砂粒含む	弥生後期～ 古墳前期	872 D
第 42 図 21 図版 16-21	小形鉢	高 [4.6] 底 5.0	平底から体部は内湾しつつ立ちあがり、中位で張り、頸部で括れ、口縁部になけて立ちあがる／内面指頭痕／二次焼成／色調は褐褐色／胎土に白色粒子・赤色粒子・砂粒・角閃石含む	弥生後期～ 古墳前期	調査区西側

第 20 表　遺構外出土土器・陶器一覧

挿図番号 図版番号	銭貨名	法　量				文様・特徴	色　調	時　期	出土位置
		銭径長 (cm)	内径長 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)				
第 42 図 23 図版 16-23	寛永通寶	2.38	0.61	0.12	(1.8)	腐食が進み緑青が全体を被覆／約 1/4 欠損	青灰色	近世	表土

第 21 表　遺構外出土銭貨一覧

第４章　調査のまとめ

第１節　旧石器時代の調査成果

今回の旧石器時代の調査では、石器集中地点４か所と礫群４か所が検出された。これらは層位的に２時期の文化層に分かれることが確認できた。16・17・19 号石器集中地点（16・17・19 U）、１・２号礫群（１・２礫）が立川ローム層第Ⅳ～Ⅴ層の文化層、18 号石器集中地点（18 U）、３・４号礫群（３・４礫）が立川ローム層第Ⅵ～Ⅶ層の文化層に属する。特に 17 U・２礫と 18 U・３礫がＴＰ 01 から重層的に検出されたことは、文化層の認識、編年的考察を行ううえで非常に重要な成果である。なお、石器集中地点の石器石材は、立川ローム層第Ⅳ～Ⅴ層の文化層（16 U・17 U・19 U）のものは黒曜石を主体（70.0％）とし、チャート（20.0％）・砂岩（10.0％）である。これに対し、第Ⅵ～Ⅶ層の文化層（18 U）の石器石材はガラス質黒色安山岩（58.3％）・頁岩（25.0％）・珪質頁岩（16.7％）となり、その違いが特徴的である。

立川ローム層第Ⅳ～Ⅴ層の文化層であるが、16・17・19 Uはいずれも小規模な石器集中地点であった。16 Uには１礫、17 Uには２礫が平面的分布、層位から伴うものとして捉えられる。石器の特徴については、16 U・17 Uから出土したナイフ形石器は切出形を呈し、立川ローム層第Ⅳ～Ⅴ層から出土するナイフ形石器の特徴をもつ。石器集中地点の特徴としては、16・19 Uでは、調整剥片や砕片が出土していないことから、個々の石器（第８図１、第 14 図１～３）は他の遺跡からの搬入品として考えられる。また 17 Uでは、第 10 図２と５が接合しており、第 10 図３・４が小型の剥片であることから、その場で剥片剥離が行われていたと考えられる。第 10 図１のナイフ形石器は、二次加工で生じた剥片が検出されていないことから、搬入品であろう。16・17U には礫群が伴うが、１・２礫は小規模であり、この地域において一時的な滞在において調理等に利用されていたと推測される。

立川ローム層第Ⅵ～Ⅶ層の文化層では、18U で石器 12 点が出土している。彫器１点、石核１点、剥片 10 点であり、石材の内訳はガラス質黒色安山岩７点、頁岩３点、珪質頁岩２点である。接合関係は、ガラス質黒色安山岩製の石器では、石核（第 12 図２）と剥片（第 12 図 10）、剥片（第 12 図３・４）同士で確認された。頁岩製の石器では剥片（第 12 図５・８）同士で認められた。接合資料があり、剥片が主体を占めることから、18U では剥片剥離が行われていたと考えられる。生産された剥片は、いずれも長さ５㎝には満たない不定形剥片であり、剥片の背面構成は、縦、横方向の剥離面が不規則に認められる。石刃のような定型的な素材生産は行われていない。第 12 図２の残核も小型であり、剥離面構成から定型的な剥片生産は難しい。礫群については、３・４礫が検出された。３礫はＴＰ 01 内に北東から南西かけて広がるが、その中で北東側に集中域があり、南西側でややまばらにまとまる。そして、18 Uが３礫の北東側集中域と、南西側の分布の間に位置している。遺跡内の空間利用の観点から、石器集中地点と礫群の位置関係が注目される。

以上、今回の旧石器時代の成果を簡単にまとめたが、いずれの石器集中地点、礫群も小規模なものであった。武蔵野台地北東部の様相を示しているものと思われるが、石器石材獲得が難しい地域における旧石器人の居住行動のあり方として捉え、今後、分析していく必要がある。

第２節　中世以降の調査成果

中世以降の遺構としては、段切状遺構１か所・土坑 40 基（839 ～ 841・843 ～ 876・878 ～ 880 D）・道路状遺構１本（１道）・ピット 104 本（１～ 104 P）が検出された。ここでは、遺構の構築時期と関係について、出土遺物と切り合い関係から推測される事項をまとめることにする。

（１）遺構の変遷について

検出した遺構の構築時期を出土遺物の時期から判断し、中世から近世までの遺構の変遷について、１～６期に区分して説明する。

１期：１号道路状遺構が構築された時期（中世：１４世紀）

１道が構築された時期である。遺物は 18 世紀の陶器擂鉢が出土しているが、平成 30 年の第 220 地点（大久保・尾形　2020）の調査で確認され、中世～近世（14 ～ 19 世紀）に比定されていることから、構築当時のものではないと考えられる。第 220 地点の隣接部分と同様の形態が確認でき、逆台形状に掘り込まれた掘り方に埋土し、上面は踏み固められて硬化している。なお、硬化面が確認された道路の北西側と南西側は二股に分かれながら、西の崖線に向かって伸びていることから、台地上から低地部に降りる通路として利用されていた可能性がある。

２期：段切状遺構が構築された時期（中世：１５世紀後半）

段切状遺構により造成工事がされた時期である。段切状遺構は自然地形の斜面地を連続的に開削して４面の平場が造営されている。最上段面は調査区中央部に位置し、南側に一面、北側に２面の平場が展開する。最上段面はその上面を一部攪乱で削平されており、造成時の標高差は不明であるが、各面の比高は５～ 30cm ほどである。また、南側下段面では１道が段切面と併行して延びている。

造成時期と関連する遺物としては、15 世紀後半の陶器皿が北側中段面から出土している。

３期：段切状遺構による造成後の時期（中世：１６世紀）

16 世紀に構築された遺構は、847・878・879 Dがあげられる。特に、878・879 Dはその形態から地下式坑である。どちらも単室で、入口竪坑部が円形、主体部が方形を呈しているが、入口竪坑部と主体部の連結部は段差をもつものと緩やかな斜面であるものと異なる部分が認められる。

(なお、880 Dは形状から地下式坑と推測されるが、出土遺物がなく、時期は中世以降と不特定である。)

この時期の遺物としては、16 世紀前半から後半までの資料が数点出土している。段切状遺構の北側中段面から出土した第 23 図 10 ～ 12 の志野皿と 16・17 の瀬戸系擂鉢など７点、847 Dから出土した第 32 図１の瀬戸系擂鉢など３点があげられる。

これらの資料は、造成された後に盛んだった土地利用の様相を示している。

４期：段切状遺構による造成後の時期（近世：１７世紀）

この時期の遺物としては数点出土しており、特に 17 世紀後半の資料が多い。段切状遺構の最上段面から出土した第 23 図１の明石産擂鉢、北側中段面から出土した７・９の瀬戸系碗と 20 の焙烙、南側下段面から出土した 24 の肥前系瓶、879 Dから出土した第 32 図１の黄瀬戸猪口があげられる。

造成された後、近世に入ってからも土地利用がなされていたことが分かる。

５期：段切状遺構による造成後の時期（近世：１８世紀）

18 世紀の遺構としては、段切状遺構と 878 Dを切って 867 Dが構築されている。

この時期の遺物としては、段切状遺構の最上段面から出土した第 23 図２・３の肥前系碗と５の肥前系瓶、北側中段面から出土した８の美濃系天目茶碗と 13 の瀬戸系皿、18 の肥前系碗、867 Dから出土した第 32 図１の美濃系壺、878 Dから出土した１の美濃系丸碗と３の美濃系供物台、879 Dから出土した肥前系碗、１道から出土した瀬戸系擂鉢があげられる。仏具の出土が興味深い。

６期：段切状遺構による造成後の時期（近世：１９世紀）

この時期の遺物としては、段切状遺構の最上段面から出土した第 23 図４の瀬戸系碗、南側下段面から出土した 22 の瀬戸系擂鉢、23 の瀬戸系碗などがあげられる。１道の使用期間を裏付けている。

（２）遺構の特徴について

本調査では、14 世紀に１道が構築され、15 世紀後半に段切状遺構により造成工事がなされた後、16 世紀から 19 世紀まで段切状遺構を切りながら他の遺構の多くが構築されたことが分かったが、詳しい土地利用についてはまだ判明しない点が多い。

これまでの市内遺跡調査を参考にすると、段切状遺構により造成された整地面に地下式坑や火葬土坑がまとまって構築される例がみられる。西原大塚遺跡第 213 地点では地下式坑が４基まとまって検出されている（尾形・大久保・深井・青木　2019）。中道遺跡では隣接して２基の地下式坑が検出され、そのうち１基には人骨が伴う（佐々木・尾形　1988）。新邸遺跡では段切状遺構の平場から中世以降の土坑、地下式坑が重複して検出されている（佐々木・尾形　1986）。中野遺跡第 49 地点では横臥屈葬された人骨が出土した土坑（尾形・深井・青木　2004）が、隣接する中野遺跡第 95 地点では「Ｔ字形」の火葬土坑５基（徳留・尾形・青木　2017）が、がそれぞれ検出している。

今回の調査では、土坑は調査区中央、中段面～最上段面に集中している。特に地下式坑とした 878 ～ 880 Dの入口竪坑部は全て最上段面にあり、かつ、近接することは注目される。また、ピットは北側中段面に多く、最上段面・南側下段面には非常に少ない傾向にある。特に最上段面西側にはピットは検出されていない。遺構の時期は不明確なものが多いが、遺構分布にまとまりがある傾向は、中・近世の土地利用を考えるうえで重要な情報となろう。

［引用・参考文献］

尾形則敏・大久保聡・深井恵子・青木修　2019『西原大塚遺跡第 213 地点　中野遺跡第 102 地点　中野遺跡第 104 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第 72 集　埋玉県志木市教育委員会

尾形則敏・深井恵子・青木　修　2004『中野遺跡第 49 地点―東京電力志木変電所の埋蔵文化財発掘調査報告―』志木市遺跡調査会調査報告第７集　志木市遺跡調査会

大久保聡・尾形則敏　2020『西原大塚遺跡第 220 地点　西原大塚遺跡第 222 地点　西原大塚遺跡第 227 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第 75 集　埋玉県志木市教育委員会

佐々木保俊・尾形則敏　1986『新邸遺跡発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第２集　志木市遺跡調査会

同　　1988『中道遺跡発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第５集　埋玉県志木市教育委員会

渋江芳浩　2010「多摩と江戸の村落景観―中近世移行期 の変化を読み解く―」『中世はどう変わったか』高志書院

徳留彰紀・尾形則敏・青木　修　2017『市場裏遺跡第 23 地点　城山遺跡第 87 地点　西原大塚遺跡第 207 地点　中野遺跡第 95 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第 68 集　埋玉県志木市教育委員会

図　　版

1．段切状遺構北側中段面掘り方

2．段切状遺構最上面

1．16号石器集中地点・1号礫群

2．16号石器集中地点石器出土状態

3．1号礫群遺物出土状態

4．TP04土層断面　A－A'東壁

5．TP04土層断面　B－B'南壁

6．17号石器集中地点・2号礫群

7．17号石器集中地点・2号礫群

8．17号石器集中地点出土状態

1．17号石器集中地点石器出土状態

2．18号石器集中地点・3号礫群

3．18号石器集中地点・3号礫群

4．18号石器集中地点・3号礫群

5．18号石器集中地点石器出土状態

6．TP01土層断面　A－A'東壁

7．TP01土層断面　B－B'北壁

8．TP01土層断面　C－C'東壁

1．4号礫群

2．TP02 土層断面　A－A ' 東壁

3．TP02 土層断面　B－B ' 南壁

4．TP03 土層断面　A－A ' 東壁

5．TP03 土層断面　B－B ' 南壁

6．19 号石器集中地点

7．19 号石器集中地点石器出土状態

8．19 号石器集中地点石器出土状態

1．TP05 土層断面　A－A ' 北壁

2．TP05 土層断面　B－B ' 東壁

3．842 号土坑

4．877 号土坑

5．段切状遺構（北側下段面）西側

6．段切状遺構（北側下段面）掘り方土層断面

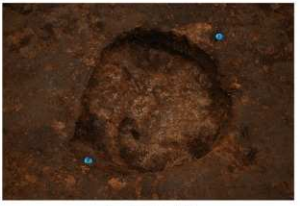
7．段切状遺構（北側中段面）北側土層断面

8．段切状遺構（北側中段面）礫集中地点

1．段切状遺構（北側中段面）掘り方土層断面

2．段切状遺構(南側下段面)

3．段切状遺構(北側下段面)



4．839 号土坑

5．840 号土坑

6．841 号土坑

7．843 号土坑

8．845 号土坑

1．846 号土坑

2．847 号土坑

3．848 号土坑

4．852 号土坑

5．853 号土坑

6．855 号土坑

7．856 号土坑

8．857 号土坑

1．858 号土坑

2．859 号土坑

3．860 号土坑

4．863 号土坑

5．864 号土坑

6．865 号土坑

7．866 号土坑

8．867 号土坑

1．868 号土坑

2．869 号土坑

3．870 号土坑

4．871 号土坑

5．873 号土坑

6．874 号土坑

7．875 号土坑

8．876 号土坑

1．878号土坑入口竪坑部

2．878号土坑入口竪坑部土層断面

3．879号土坑主体部土層断面

4．1号道路状遺構

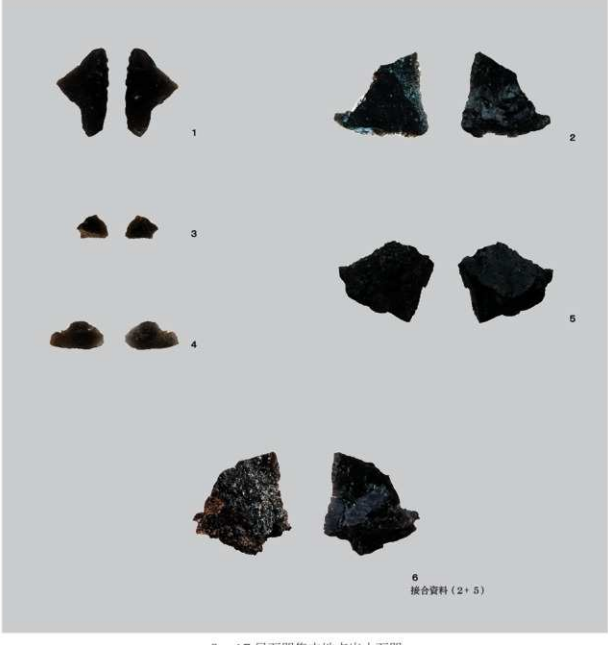
5．1号道路状遺構　土層断面　A－A'

6．1号道路状遺構　土層断面　B－B'

7．1号道路状遺構硬化面

8．調査風景

1．16号石器集中地点出土石器



2．17号石器集中地点出土石器

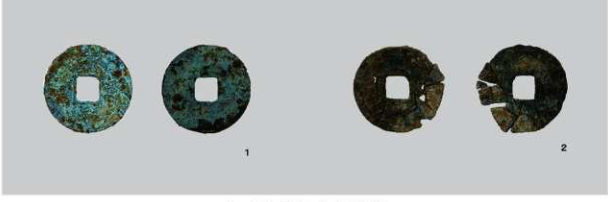
18号石器集中地点出土石器

1．19号石器集中地点出土石器

2．段切状遺構出土遺物

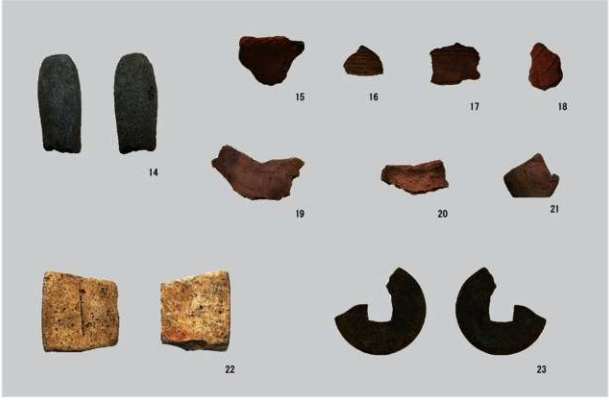
1．土坑出土遺物

2．1号道路状遺構出土遺物



3．101号ピット出土遺物

遺構外出土遺物 1



遺構外出土遺物２

報告書抄録

ふりがな	にしはらおおつかいせきだい224ちてん　まいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書　名	西原大塚遺跡第224地点　埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	志木市の文化財
シリーズ番号	第74集
編著者	尾形則敏／大久保　聡／成島一也／西川忠春
編集機関	埼玉県志木市教育委員会
所在地	〒353-0002 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号　TEL 048（473）1111
発行年月日	令和2（2020）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 (°′″)	東経 (°′″)	調査期間	調査面積㎡	調査原因
にしはらおおつかいせき 西原大塚遺跡 （第224地点）	しきしさいわいちょう 志木市幸町 2丁目6286-2	11228	09-007	35° 49′ 40″	139° 33′ 57″	20190521 ～ 20190731	379.57	分譲住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西原大塚遺跡 （第224地点）	集落跡	旧石器時時代 縄文時代 中世以降	石器集中地点　4か所 礫群　4か所 土坑　2基 段切状遺構　1か所 土坑　40基 道路状遺構　1本 ピット　104本	石器 土器 陶磁器・土器・石製品 陶磁器・土器・石製品 ・銭貨 陶器・瓦・石製品 銭貨	旧石器時代では、18号石器集中地点が立川ローム第Ⅶ層から検出された。 中世以降では、段切状遺構などが検出され、南側に隣接する第220地点と同様に「大塚千手堂」との関連性がもたれる。

要　約

西原大塚遺跡は、縄文時代中期の環状集落や弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡を主体とする遺跡である。今回は第224地点の調査成果を収録している。

本地点では、旧石器時代の石器集中地点4か所・礫群4か所、縄文時代の土坑1基、中世以降の段切状遺構1か所・土坑42基・道路状遺構1本・ピット104本が検出された。旧石器時代では、TP01から、黒曜石を主体とする17号石器集中地点(立川ローム第Ⅴ層)と、チャートや安山岩を主体とする18号石器集中地点（立川ローム第Ⅶ層）が層位的に分かれて検出された。また、17号石器集中地点と2号礫群、18号石器集中地点と3号礫群がそれぞれ伴う。

中世以降では、調査区の全面に段切状遺構が広がり、平場面は4面確認された。出土した遺物としては、古瀬戸の皿や土鍋などが出土しいることから、15世紀に比定される。

志木市の文化財　第74集

西原大塚遺跡第224地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発　行　埼玉県志木市教育委員会
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号
発行日　令和2（2020）年3月31日
印　刷　山三印刷株式会社